
「1978 年 宮 城 県 沖 地 震」 アンケート調査結果の概要

地震の発生 昭和53年 6 月12日
午後 5 時14分
調査の実施 昭和53年 7 月 1 日

昭和 53 年 7 月

宮 城 県 広 報 課

ご あ い さ つ

宮城県沖地震は、県下一円に未曾有の大被害を与えました。私たちはいま、一日も早い生活再建に県民の総力をあげております。

今回の地震は、災害との取り組みがどうしても安易になりがちであった私たちへの警鐘でもあり、とくに都市型災害として、私たちの生活がいかに災害に弱いかが実証され数多くの課題を残しました。私たちは、今回の地震を貴重な教訓としてうけとめ、専門的調査結果を始め、今回のアンケート調査に寄せられた多くの県民の意見など私たちの体験を細大もらさず記録し、今後の生活の安定や地域づくりに生かしてまいりたいと存じます。

県民各位のより一層のご協力ご理解を賜われますよう切にお願いいたします。

昭和58年7月

宮城県知事 山 本 壮一郎

も く じ

I	アンケート調査のあらまし	1
1	目 的	1
2	標本数及び回収率	1
3	調 査 方 法	1
4	調 査 期 日	1
5	調 査 項 目	1
6	集 計 方 法	2
II	調査結果の概要	4
1	地震にどこであいどう感じたか	4
2	地震の際どのように行動したか	16
3	地震がおさまってからの行動について	22
4	地震の被害や生活への影響などについて	38
5	地震への備えについて	60
6	復旧対策や広報活動などについて	72
7	今回の地震を体験しての感想・意見など	84
	参 考 資 料	
1	アンケート調査様式	87
2	宮城県沖地震のあらまし	95
3	仙台市消防局のアンケート調査結果	98
4	泉市消防局のアンケート調査結果	98
5	石巻地区広域行政事務組合のアンケート調査結果	101
6	迫町消防署のアンケート調査結果	102

「1978年宮城県沖地震」アンケート調査結果の概要

I アンケート調査のあらまし

1 目 的

昭和53年6月12日、東日本一帯をおそい、宮城県下に甚大な被害を与えた「1978年宮城県沖地震」に際し、県民がどのように行動し、どのように対応したか、また被害の程度や地震災害に対する意識はどうであったかなど県民一人一人の体験を記録し、今後の防災対策（防災体制の強化や防災意識の高揚等）に役立てるものとする。

2 標本数及び回収率

標本数は2,000標本とし、県内在住20歳以上の県民を対象に行った。また、その内訳は地域別（県内を4地域に区分）、男女別、年齢階層別とし、標本数はそれぞれの地域総人口におおむね比例して配分した。

なお、都市災害の実態を明らかにするため仙台・泉地区を特掲できるよう配慮した。

回収は1,525標本、回収率は76.3%であった（各地域ともおおむね同率）。

3 調査方法

調査は、各市町村ごとに委嘱している県政モニター（85人）経由の依頼（935標本）、県職員を通じての依頼（565標本）、県庁来庁者に直接依頼（500標本）の3方法をとった。県政モニターを経由した分は、市部各22標本、町村部各11標本を配分し、これに県職員を通じた分を加えて地域別人口総数に比例するよう配分した。県庁来庁者に依頼した分は来庁者に無作為に依頼した。

調査は、それぞれ調査客体に調査票を配布し、回答を記入した後、調査客体個々に投函して貰う方法をとった。

4 調査期日

調査は、昭和53年7月1日に実施し、7月1日から6日までの間に記入し、投函することとした。

5 調査項目

調査項目は、合計57問で次の項目から構成した。

- (1) 地震にどこであい、どう感じたか（10問）
- (2) 地震の際どのように行動したか（6問）

- (3) 地震がおさまってからの行動について (11 問)
- (4) 地震の被害や生活への影響について (16 問)
- (5) 地震への備えについて (8 問)
- (6) 復旧対策や広報活動などについて (6 問)
- (7) 今回の地震を体験しての感想・意見等

6 集計方法

集計は、回収した調査票のうち記入もれなどで集計できない 3 標を除いた 1,522 標本について行い、全県のほか地域別（仙南内陸部、仙台・周辺部、仙北内陸部、仙北沿岸部、特掲仙台・泉地区）、男女別（男・女）、年齢階層別（20～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50～59 歳、60 歳以上）に製表し、今回の地震の地域的な差異及び男女別、年齢階層別に見た感受度合の差異の把握に努めた。

なお、地域別区分は次によった。

仙南内陸部	白石市、角田市、刈田郡、柴田郡、伊具郡
仙台・周辺部	仙台市、塩釜市、名取市、多賀城市、泉市、岩沼市、亶理郡、名取郡、宮城郡、黒川郡
仙北内陸部	古川市、加美郡、志田郡、玉造郡、遠田郡、栗原郡、登米郡
仙北沿岸部	石巻市、気仙沼市、桃生郡、牡鹿郡、本吉郡
（特掲）	
仙台・泉地区	仙台市、泉市

この結果、集計標本数は次のとおりである。

全 県	計	男	女
	1,522	755	767

地 域 別	仙南内陸部	仙 台 市 ・ 周 辺 部	仙北内陸部	仙北沿岸部	（特 掲） 仙台・泉地区
	157	706	415	244	453

年齢階層別	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上
	307	343	349	278	245

表のみかた

- ☆ 一つだけ回答の項目（単一回答項目）と二つ以上の回答もよい項目（重複回答項目）は、重複回答項目だけ各表頭の上にその旨を記載し、単一回答項目と区別した。
- ☆ 百分比は、集計総数（1,522 標本）又は分類別数を 100.0 % として算出した。百分比は、小数第 2 位（解説では小数第 1 位）を 4 捨五入した。このため各項の合計が 100.0 % 又は計に合致しないことがある。
- ☆ 重複回答項目は、集計標本数で除したので、各項の合計が 100.0 % を超える。
- ☆ 表頭の上に（ ）書きしている表以外の項目は、全客体、もしくは〔1〕～〔2〕から〔19〕までは県内にいた人を対象に調査した項目である。ただし、一部は前項目で特定した人を調査した項目がある。

Ⅱ 調査結果の概要

1 地震にどこであい、どう感じたか

- | | |
|-----------------|-----------|
| 〔1〕 地震のときどこにいたか | 〔5〕 歩行者の感 |
| 〔2〕 どこで何をしていたか | 〔6〕 自動車など |
| 〔3〕 自宅からの距離 | 〔7〕 地震のこわ |
| 〔4〕 建物のゆれ方 | |

【1】 地震のときどこにいたか

◇ 県民の98%は県内に

地震発生のとき県民がどこにいたかをみると、その大半98%の人が「県内に」おり、男女別・年齢階層別にみても大差はなく、県民のほとんどが県内にいて地震に出会っていた。

◇ このうち「自宅にいた」のは44%、「自宅以外の建物の中」は29%、「外に」いたのは27%

地震発生のとき県内にいた人がどこにいたかをみると、「自宅」が44%、「自宅以外の建物の中」が29%「外にいた」が27%と半数以上が自宅以外の建物の中や外にいたことがわかる。男女別では、「自宅」は女性が高く、逆に男性は地震発生時の時間の関係もあって「自宅以外の建物の中」や「外にいた」人が多く、このうち「歩いていた」「自動車の中」にいた人は69%であった。これは地震発生時が勤務時や帰宅時であることによるものである。また年齢階層別にみると「自宅」にいた人は50～59歳層、60歳層の高年齢層が多く、逆に「自宅以外の建物の中」と

(1) - 1 地震のとき県内か県外か

	全 県	仙 南 内 陸 部
県 外 に い た	2.2	2.5
県 内 に い た	97.8	97.5

(1) - 2 (県内にいた人に：以下「19

	全 県	仙 南 内 陸 部
自宅（庭も含む）	44.3	45.1
自宅以外の建物の中	28.9	30.7
会社・事務所等	60.1	66.0
商店・デパート等	18.6	19.1
その他の建物	21.3	14.9
外 に い た	26.8	24.2
歩いていた	30.3	24.3
運動していた	2.5	2.7
遊んでいた	1.8	-
自動車の中	38.3	48.6
その他で	27.1	24.3

じ方

の感じ方

さとゆれた時間

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
1.7	3.1	1.6	0.4	3.2	1.2	2.9	1.7	1.4	2.5	2.4
98.3	96.9	98.4	99.6	96.8	98.8	97.1	98.3	98.6	87.5	97.6

まで各項同じ)どこにいたか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
38.8	47.5	54.2	34.1	32.3	55.8	25.8	38.9	40.7	52.8	70.3
32.3	25.6	23.8	36.1	35.6	22.6	42.6	31.8	31.4	23.2	10.9
56.3	60.2	70.2	58.9	68.5	47.4	66.9	62.6	56.5	49.2	57.7
23.7	12.6	8.8	25.8	10.0	31.6	15.0	16.8	22.2	27.0	7.7
20.1	27.2	21.1	15.3	21.5	21.1	18.1	20.6	21.3	23.8	34.6
29.0	26.9	22.1	29.7	32.1	21.6	31.5	29.4	27.9	24.0	18.8
32.8	29.6	26.4	38.1	22.1	42.1	35.1	25.3	33.3	21.5	37.8
1.5	5.6	-	2.2	3.0	1.8	5.3	2.0	2.1	1.5	-
1.5	2.8	1.9	0.7	1.7	1.8	3.2	2.0	-	1.5	2.2
38.8	33.3	41.5	39.6	46.8	26.2	29.8	47.5	38.5	41.5	31.1
25.9	28.7	30.2	19.4	26.4	28.0	26.6	23.2	26.0	33.8	28.9

答えた人は20～29歳層を中心とした若い層が多い。

地域別では「自宅にいた」率は仙北沿岸部が最も高く、「自宅以外の建物の中」「外にいた」では、仙台・周辺部特に仙台・泉地区など都市部が高い。

【2】どこで何をしていたか

◇ 自宅にいた人の66%は台所や居間に

地震発生るとき自宅にいた人が家のどこにいたかは、「台所」に22%、「居間」に44%と約半数以上の人が台所や居間にいた。男女別では「居間」では男女とも大差はないが「台所」では女性が高く、年齢階層別では「台所」では60歳以上層が最も低く、逆に「居間」では60歳以上層が高くなっている。地域別では「居間」にいたと答えた人は、仙台・周辺部及び仙南内陸部が他地区に比較して高く、とくに仙台・泉地区など都市部では半数以上が居間にいて地震に出会っている。

(1) - 1 (自宅にいた人)家のどこに

	全 県	仙 南 内 陸 部
台 所	21.7	21.7
居 間	43.9	44.9
そ の 他 の 室 内	19.3	27.5
庭 な ど 外 に	15.2	5.8

◇ 31%の人が家事の最中に地震

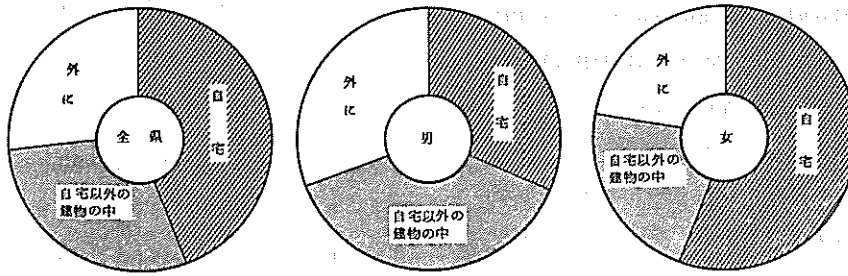
地震発生るとき自宅にいた人が何をしていたかをみると「家事の最中」と答えた人が31%と最も多く、次に「テレビをみていた」が15%、「新聞をみていた」が10%の順になっており、このほか「その他」36%は庭の除草、草木の手入れ、物置での片づけなどがほとんどを占めている。男女別では、男は「テレビをみていた」が23%で最も多く、次いで「新聞などをみていた」が14%となっている。女では「家事の最中」が41%で最も多く、次いで「テレビをみていた」「新聞をみていた」の順になっている。

(2) - 2 (自宅にいた人)何をしていた

	全 県	仙 南 内 陸 部
家 事 の 最 中	30.7	32.4
食 事	0.5	-
テレビをみていた	14.9	16.2
ソファなどでゆったりしていた	5.9	2.9
新聞などをみていた	10.0	10.8
横になっていた	2.2	1.5
そ の 他	35.9	36.8

また「家事の最中」であった人は30～59歳層までの中年層が30%台を占めている。「テレビをみていた」は50～59歳層、60歳以上層が他の年齢層より高く、「新聞をみていた」では20～29歳層、30～39歳層の青年層が高くなっている。地域別については大きな差異

地震のときどこにいたか



いたか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
22.7	19.3	23.1	22.3	5.3	29.8	23.7	27.7	21.8	26.4	12.5
46.9	41.2	40.8	52.9	44.2	43.7	35.5	35.4	44.7	43.1	54.2
14.7	21.4	21.5	12.7	27.4	15.3	31.6	21.5	24.1	15.3	11.3
15.8	18.2	14.6	12.1	23.1	11.3	9.2	15.4	9.9	15.3	22.0

たか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
31.3	27.4	33.1	28.8	11.9	40.7	27.0	36.9	34.8	33.1	21.4
-	0.5	1.5	0.6	0.4	0.5	1.4	0.8	-	-	0.6
12.8	14.5	19.2	9.6	23.0	10.6	9.5	6.9	11.6	18.9	23.3
7.9	7.0	1.5	10.3	3.5	7.1	4.1	8.5	8.7	3.4	4.4
11.7	9.1	7.7	13.5	14.2	7.8	14.9	10.8	7.2	9.5	10.1
2.3	1.1	3.8	3.2	3.1	1.7	4.1	2.3	1.4	1.4	2.5
34.0	40.3	33.1	34.0	43.8	31.7	39.2	33.8	36.2	33.8	37.7

はなく、各地域とも「家事の最中」と答えた人が最も多かった。

【3】 自宅からの距離

- ◇ 地震のとき自宅にいなかった人の79%は自宅から10キロメートル以内にいた

地震発生の際に自宅にいなかった人が自宅からどのくらい離れたところにいたかをみると「1～5キロメートル」が31%と最も高く、次いで「1キロメートル未満」28%「5～10キロメートル」が20%とその大半が10キロメートル以内にいた。男女別にみると「1キロメートル未満」にいたのは女性が

高く、自宅からの距離が離れるにしたがって男性の割合が高くなっている。

また、年齢階層別、地域別においても各地域とも同様の傾向がみられ、いずれも10キロメートル以内が大半を占めている。

都市部の仙台・泉地区については「1キロメートル未満」の割合が他地域に比較して低くなっている。一般に仙南内陸部、仙北沿岸部の農村部では1キロメートル未満の近距離、10キロメートル以上の遠距離に、仙台・周辺部では1～10キロメートルの中距離で他の地域より多

(3) (自宅にいなかった人) 自宅か

	全 県	仙 南 内 陸 部
1キロメートル 未 満	28.1	33.3
1～5 キロメートル	30.5	21.4
5～10 キロメートル	20.1	14.3
10～50 キロメートル	18.1	23.8
50 キロメートル 以 上	3.2	7.1

【4】 建物のゆれ方

- ◇ 県民の72%が「激しいゆれ」を感じ
中でも8%が「かけているものが落ち
た」程激しくゆれたと答えた

地震発生の際建物の中にいた人が感じた電灯笠やカレンダーなどかけているもののゆれ方は、ほとんどの人が激しいゆれを感じ、「かなりゆれた」「非常に激しくゆれた」が最も高く合わせて72%を占め、また「かけているものが落ちた」と回答した人が8%にもなっている。これは男女別、年齢階層別についてもほぼ同様である。

また、年齢階層別、地域別についても同じだが、地域別では「見る余裕がなかった」が仙台・周辺部、仙北内陸部では全県を下廻り、逆に「激しいゆれ」「落ちた」で高くなってい

(4) - 1 (建物の中にいた人) 電灯

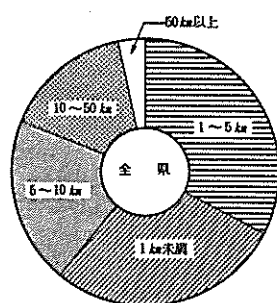
	全 県	仙 南 内 陸 部
見る余裕がなかった	19.4	23.2
少しゆれた	1.1	-
かなりゆれた	36.8	38.4
非常に激しくゆれた	35.1	31.3
かけているものがゆれた	7.6	7.1

らどのくらい離れたところにいたか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
22.5	31.8	38.2	18.1	22.8	36.2	24.4	23.2	28.4	35.7	39.4
32.6	28.0	34.5	38.1	31.3	29.4	29.5	29.9	30.5	36.5	25.4
24.9	14.7	16.4	28.5	20.8	19.0	22.6	19.4	22.8	13.5	18.3
18.0	19.9	10.9	12.8	21.6	12.9	19.4	24.2	15.2	14.3	11.3
1.9	5.7	-	2.5	3.6	2.5	4.1	3.3	3.0	-	5.6

くなっているが、これは地域による勤務地などの関係からの人口流動によるものである。

自宅からどのくらい離れたところにいたか。



笠、カレンダーなどかけてあるもののゆれ方

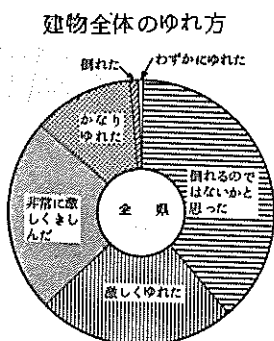
地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
19.2	18.0	24.0	16.8	14.3	23.7	17.4	19.1	17.3	18.8	26.1
1.4	1.2	0.6	1.4	0.7	1.4	2.1	-	0.9	1.7	1.0
34.7	40.6	37.1	35.7	32.7	40.2	45.1	39.7	33.3	33.9	32.0
36.5	31.6	34.3	37.8	42.3	28.9	30.2	30.3	40.6	41.4	31.0
8.2	8.6	4.0	8.2	10.0	5.6	5.1	10.8	7.9	4.2	9.9

るなどこの両地域では、他の地域より強く感じたことをあらわしている。

◇ 40%のタンス、食器棚が「倒れたものもある」

タンス、食器棚、ロッカーなどのゆれ方の感じ方は、「倒れたものもある」が40%、「かなりゆれた」「ずれ動いた」が44%、「ほとんど倒れた」が8%となっている。

特に仙台・周辺部、仙北内陸部では「倒れたものもある」「ほとんど倒れた」が他の地域より多く、ゆれの激しかったことを示している。



◇ 県民の40%が建物が「倒れるのではないかと心配」「倒れかけた」と心配

建物全体のゆれ方の感じは、「倒れるのではないかと心配」が39%と最も高く、次いで「激しくゆれた」が24%、「非常に激しくきしんだ」が24%となっており、県民のほとんどが、建物全体が激しくゆれ、倒れるのではないかと心配した。また、建物が「倒れかけた」ものは1.2%にも達している。

【5】歩行者の感じ方

◇ 外を歩いていた人の91%は歩けなかった

外を歩いていた人で地震のとき歩くのに支障があったかの問に対しては、「ふらついて歩けなかった」と答えたものが54%と半数以上を占め、次いで「立っておれない程」が31%、「はい

〔4〕-2 (建物の中にいた人) タンス

	全 県	仙 南 内 陸 部
気がつかなかった	8.7	6.3
わずかにゆれた	1.5	4.5
かなりゆれた	28.6	37.5
ずれ動いた	15.1	15.2
倒れたものもある	39.8	30.4
ほとんど倒れた	8.2	6.3

〔4〕-3 (建物の中にいた人) 建物全

	全 県	仙 南 内 陸 部
わずかにゆれた程度	0.5	-
かなりゆれた	12.1	17.0
激しくゆれた	24.1	21.4
非常に激しくきしんだ	23.5	20.5
倒れるのではないかと心配	38.7	41.1
倒れかけた、倒れた	1.2	-

〔5〕 (外を歩いていた人に) 歩くのに

	全 県	仙 南 内 陸 部
支障なかった	5.0	41.2
ふらついて歩けなかった	54.4	29.4
立っておれないほど	30.6	17.6
はいつくばった	8.3	5.9
そ の 他	3.8	5.9

食器棚、ロッカーなどのゆれ方

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
7.1	4.8	9.7	6.0	4.2	8.6	7.3	7.1	5.5	7.2	6.5
-	1.6	2.3	2.0	0.9	2.0	2.0	1.8	1.3	0.8	1.5
26.5	28.5	36.0	24.2	30.7	27.0	34.0	24.5	23.2	31.2	33.2
14.7	16.9	16.6	13.4	13.9	16.1	15.0	16.3	13.5	16.0	15.1
43.5	36.9	32.6	44.6	41.6	38.4	34.8	43.6	44.5	38.0	35.7
8.2	11.2	2.9	9.7	8.6	7.9	6.9	6.7	11.9	6.8	8.0

体のゆれ方

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
-	0.4	2.3	0.3	0.2	0.7	-	0.7	0.3	0.4	1.0
10.0	12.5	18.3	7.5	8.7	14.8	17.4	14.7	11.1	7.5	8.4
22.9	21.6	26.3	25.7	21.6	26.1	24.0	22.7	21.8	21.3	33.5
25.9	23.9	17.7	23.7	26.1	21.4	26.0	19.0	25.6	25.1	21.5
39.2	39.2	34.9	38.8	42.4	35.8	32.6	42.0	39.9	43.1	34.6
1.7	2.4	0.6	2.0	1.0	1.2	-	1.0	1.3	2.5	1.0

男女別、年齢階層別には、大きな差異はみとめられないが、地域別にみると、仙台・周辺地や仙北内陸部では「かなりゆれた」や「激しくゆれた」と感じたのが他の地域より低いのに対し、「倒れるのでは」と「倒れかけた」が高くなっている。地震のゆれの激しさの大きさを示すものと思われる。

支障があったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
-	2.4	-	-	2.2	8.6	9.1	-	7.0	5.3	-
69.5	26.8	70.0	53.7	54.4	54.3	61.4	66.7	48.8	31.6	54.2
17.1	65.9	25.0	35.8	37.8	21.4	25.0	30.0	27.9	57.9	25.0
8.5	2.4	5.0	6.0	2.2	11.4	4.5	3.3	7.0	5.3	12.5
4.9	2.4	-	4.5	3.3	4.3	-	-	9.3	-	8.3

つくばった」が6%を占め、外を歩いていた人の91%がとても歩けない状態になっていたことがわかった。

「ふらついて歩けなかった」「立っておれない程」と大半が答えていることについては、地域別、男女別、年齢階層別に関係なく高く、年齢層別で30～39歳層のふらついて歩けなかったり、立っておれない程歩くのに支障があったとするものは97%を示し、他の年齢層より高い意外な結果となっている。

また、地域別については、特に仙南内陸部で支障がなかったと答えたものが41%もあり、他地域に比して非常に高くなっている。

【6】自動車などの感じ方

◇ 自動車などでは67%が「激しいゆれ」を感じる

自動車などにのってどう感じたかについてみると「バウンドし激しくゆれた」と答えたものが67%と最も多く、次いで「車体がゆれた程度」と答えたもの15%を占め、これは男女別、年齢階層別でもほぼ同様の値を示している。

しかし「横転しそうになった」と答えたものでは男性の方が多く、また年齢階層別では60歳以上層(29%)が「横転しそうになった」と感じている。

地域別では、仙台・周辺部、仙北内陸部が「激しくゆれた」「横転しそうになった」が他地域より断然高くなっている。

◇ 自動車を運転していた人の68%は運転できず車を止める

地震のとき自動車を運転していた人

については「運転できず止まった」と答えたものが68%で大半を占め、次いで「ハンドルをとられた程度」と答えたものが17%を示した。また、「何ともなかった」のはわずか2%であり、自動車運転者の大半が自動車運転に大きな支障を感じていた。

また、これらのことは地域別、男女別、年齢階層別についてもほぼ同様の傾向を示している。

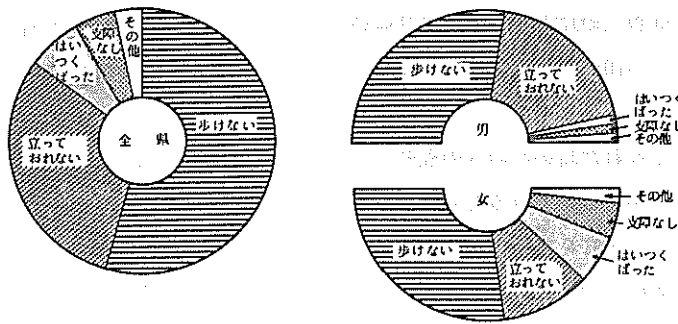
【6】-1 (自動車などにのっていた人)

	全 県	仙 南 内 陸 部
何も感じなかった	2.0	-
車体がゆれた程度	14.5	27.8
バウンドし激しくゆれた	67.1	61.1
横転しそうになった	9.2	-
そ の 他	7.2	11.1

【6】-2 (自動車を運転していた人)

	全 県	仙 南 内 陸 部
何ともなかった	1.9	-
ハンドルをとられた程度	17.1	30.8
困難だったが運転はできた	8.6	7.7
運転できず、止まった	67.6	53.9
そ の 他	4.8	7.7

歩行者の感じ方



に) 自動車などによってどう感じたか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
2.6	2.6	-	2.0	1.9	2.2	-	4.3	-	-	7.1
13.0	7.9	21.1	15.4	14.2	15.2	15.4	12.8	15.4	23.1	-
67.5	63.2	78.9	67.3	64.2	73.9	73.1	70.2	64.1	65.4	57.1
9.1	18.4	-	11.5	11.3	4.3	3.8	4.3	15.4	3.8	28.6
7.8	7.9	-	3.8	8.5	4.3	7.7	8.5	5.1	7.7	7.1

運転していてどうだったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
2.5	3.0	-	3.9	2.5	-	4.8	-	3.5	-	-
12.5	9.1	31.6	7.7	17.7	15.4	9.5	18.8	17.2	29.4	-
10.0	6.1	10.5	11.5	8.9	7.7	9.5	6.3	6.9	11.8	16.7
65.0	81.8	58.0	65.4	65.8	73.1	71.4	68.8	69.0	58.8	66.7
10.0	-	-	11.5	5.1	3.9	4.8	6.3	3.5	-	16.7

しかし、年齢階層別で「運転できず止まった」と答えたものは年齢の若い層に多いことが注目された。

【7】地震のこわさとゆれた時間

- ◇ 地震はやっぱりこわい。「かなりこわかった」が70%、「少々こわかった」が21%

地震でゆれた時のこわさの程度はどうだったかについてみると「かなりこわかった」と答えたものが70%、「死ぬかと思ひ絶望的になった」と答えたものが7%と大半の人が非常にこわいと感じている。男女別については女性が「かなりこわかった」「死ぬかと思ひ絶望的に」と感じたものの割合が高く、とくに「死ぬかと思ひ絶望的に」感じたものは10%を占め、男性より女性の方が地震のこわさを大きく感じている。

- ◇ 地震は長く感じた ― 県民の69%がゆれが長かったと感じる

地震のゆれた時間の長さをどう感じたかについては、「長かった」と答えたものが47%と最も高く、次いで「非常に長かった」と答えたもの22%で、県民の大半が地震は長かったと感じている。男女別についてみると、「長かった」については男女とも最も高いが、「非常に長かった」については女の方が高く、逆に「短かった」と答えたものは男の方が高い。

〔7〕－1 地震でゆれた時のこわさの程

	全 県	仙 南 内 陸 部
何とも思わなかった	2.6	3.3
少々こわかった	20.5	19.6
かなりこわかった	70.2	74.5
死ぬかと思ひ絶望的に	6.7	2.6

〔7〕－2 ゆれた時間の長さはどう感じ

	全 県	仙 南 内 陸 部
非常に短かった	6.4	9.2
短かった	19.7	22.2
長かった	46.6	41.2
非常に長かった	22.0	21.6
わからない	5.3	5.8

被災者の意識調査結果（被災者に対する意識）

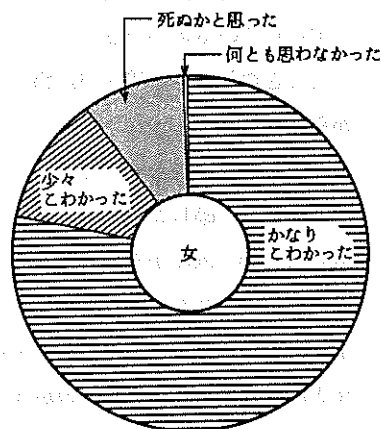
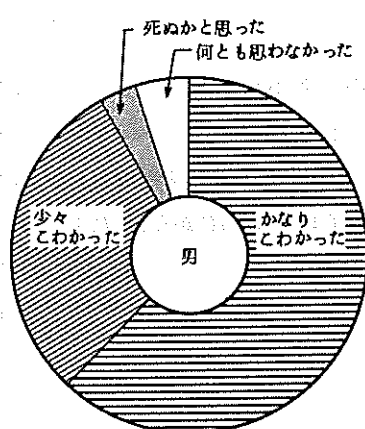
度はどうだったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
2.5	2.0	3.4	1.3	4.8	0.4	3.4	2.7	2.6	1.5	2.6
21.9	18.2	20.9	19.6	29.4	11.8	25.3	20.4	19.0	19.0	18.3
67.2	74.3	69.0	69.0	62.0	78.2	64.3	70.4	68.4	75.1	74.2
8.4	5.5	6.7	10.1	3.8	9.6	7.0	6.5	10.0	4.4	4.9

にか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
7.3	3.0	7.5	7.5	9.7	3.2	9.4	5.6	5.5	5.9	5.4
22.5	14.7	18.8	22.6	25.6	14.1	19.2	18.5	17.5	21.8	23.0
46.2	48.8	47.9	45.0	43.9	49.3	47.5	42.9	49.9	44.7	48.5
19.0	28.6	20.0	18.9	17.1	26.8	17.5	27.9	22.2	23.6	17.2
5.0	4.9	5.8	6.0	3.7	6.6	6.4	5.1	4.9	4.0	5.9

こわさの程度はどうだったか



2 地震の際どのように行動したか

〔8〕 そのとき、どのように行動したか

〔10〕 地震だけ

〔9〕 地震のとき、消火できたか

【8】 そのとき、どのように行動したか

- ◇ 3分の1が動転。無我夢中、余裕なくが31%も

地震の最中に、「無我夢中だった」、「余裕なく戸外に」、「余裕なく机の下に」などと回答したのは81%にも達している。この反面「火を消して戸外に」、「火を消して机の下に」など、常日頃の心がけを実行した人は81%に止まっているが、その他に含まれている子供や老人の世話をしながら冷静に行動をした人を加えると約半分を超え全般的には冷静に行動した人が多くなっている。男女別では女の89%がこれを実行しているのが目立つ。

- ◇ とっさの行動 — 30%が建物や電柱から離れる

とっさの時に身の安全を守るため、どのように行動したかについては「意識的に建物・電柱から離れた」、「夢中で建物・電柱から離れた」が30%を示した。しかし、「夢中で建物・電柱などに近づいた」と答えたのが8%に達していた。「その他」45%は、そのまま立っていた、そこにしゃがんだが多い。近くの木や金属柱などにしがみついたと答えた人が多かった。

〔8〕-1 (自宅にいた人に) そのとき

	全 県	仙 南 内 陸 部
火を消して戸外に	20.5	6.6
火を消して机の下に	10.7	23.0
余裕なく戸外に	5.5	1.6
余裕なく机の下に	1.7	1.6
無我夢中だった	23.6	34.4
そ の 他	38.0	32.8

〔8〕-2 (外にいた人に) そのとき

	全 県	仙 南 内 陸 部
夢中で建物・電柱などに近づく	2.9	2.5
意識的に建物の中に	2.0	5.0
夢中で建物・電柱から離れた	7.2	7.5
意識的に建物・電柱から離れた	22.4	15.0
無我夢中だった	20.1	12.5
そ の 他	45.4	57.5

がをした人

身の安全を守るためどのように行動したか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
21.6	21.7	23.3	17.7	12.1	26.1	17.9	18.9	25.6	22.6	16.6
10.5	8.3	9.2	11.0	8.2	12.4	16.7	11.8	6.8	14.3	7.3
6.7	3.6	7.5	7.3	6.6	4.7	10.7	7.1	4.1	3.8	4.0
1.9	1.0	2.5	1.2	3.5	0.5	3.6	2.4	1.4	0.8	1.3
25.8	20.1	19.2	28.1	23.1	24.0	22.6	24.4	23.7	20.3	26.5
33.5	45.3	38.3	34.7	46.5	32.3	28.5	35.4	38.4	38.2	44.3

身の安全を守るため、どのように行動したか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
3.6	3.2	-	4.1	2.1	3.9	4.3	2.7	2.8	-	4.8
1.8	1.6	1.7	2.1	1.7	2.4	1.1	3.6	0.9	2.8	1.6
6.3	3.9	17.0	8.3	6.7	7.7	10.8	7.2	6.4	2.8	8.1
22.2	22.1	28.8	20.0	20.4	24.6	25.8	23.4	19.8	22.2	21.0
20.8	20.5	22.0	22.1	15.4	25.6	14.0	14.4	25.7	25.0	24.2
45.3	48.7	30.5	43.4	53.7	35.8	44.0	48.7	44.9	47.2	40.3

【9】 地震のとき、消火できたか

◇ まだ、火を使っていなかった家が75%

地震のときに火を「使っていなかった」家庭は全体の4分の3にも達していた。地震が夕方とはいえ、まだ夕食の炊事には少々早かった時間であったことかも知れない。火を「使っていた」家では火元は「プロパン」と「都市ガス」が8割を占めていた。

地域別でも「火を使っていた」比率は大きな差はなく、わずかに仙北沿岸部で高くなっている。

◇ 火を使っていた家庭のほとんどが消火

「すぐ火を消した」は、90%に達し、「しばらくして」の6%を加えるとほとんどの家で火を消したことになる。ほとんどの家庭で冷静に対処し、消火したことになる。

しかし、反面、「消そうと思ったが消せなかった」や「あわてていて消すのを忘れた」という消さず組が4%もあり、今後地震発生に当たって訓練や指導の必要性を示している。

地域別には、仙台・周辺部が他の地域に比べ火を消したが低く、それだけ「消せなかつた」

「忘れた」が高く都市部での消火に対する対応の低いことがわかる。

〔9〕-1 地震のとき、あなたの家で火

	全 県	仙 南 内 陸 部
使っていなかった	74.5	74.5
使っていた	25.5	25.5
都市ガス	19.3	—
プロパンガス	68.9	84.6
石油コンロ	1.6	2.6
電熱器	2.4	5.1
その他	7.7	7.7

〔9〕-2 地震のとき、火を消したか

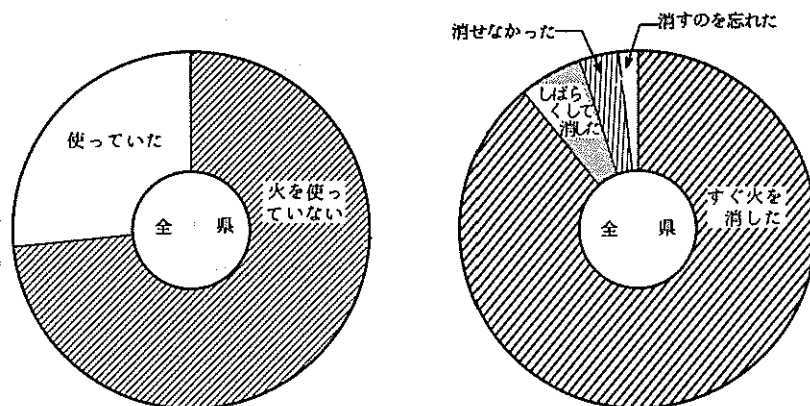
	全 県	仙 南 内 陸 部
すぐ火を消した	90.2	92.3
しばらくして消した	5.5	5.1
消そうと思ったが消せなかった	2.4	2.6
あわてていて消すのを忘れた	1.9	—

を使っていたか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
75.4	76.6	68.3	75.4	77.4	71.6	77.1	73.4	75.1	73.1	73.2
24.6	23.4	31.7	24.6	22.6	28.4	22.9	26.6	24.9	26.9	26.8
32.4	5.4	17.1	48.6	20.9	18.1	25.4	19.1	15.3	16.4	21.9
54.8	86.0	72.5	36.0	67.5	70.2	70.1	68.5	72.9	71.2	60.9
0.6	3.2	1.3	0.9	2.5	0.9	—	—	1.2	1.4	6.8
1.2	1.1	5.3	1.8	2.5	2.3	—	3.4	1.2	2.7	4.7
11.2	4.3	3.9	12.6	6.7	8.4	4.5	9.0	9.4	8.2	6.3

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
88.4	93.5	89.5	88.3	87.8	92.1	87.0	93.4	88.2	93.0	89.1
5.8	3.3	7.9	6.3	7.9	3.7	7.3	3.3	5.9	4.2	7.7
3.5	1.1	1.3	2.7	2.4	2.3	1.5	3.3	3.5	1.4	1.6
2.3	2.1	1.3	2.7	1.9	1.9	4.2	—	2.4	1.4	1.6

火を使っていたか・火を消したか



【10】 地震でけがをした人

◇ 「けがをした」人は、100世帯で3人の割合

けがをした人が「いる」のけがの原因は、室内でガラス片を踏むなどしたものが一番多く(47%)、「家具などが倒れて」が27%でこれに次いでいる。年齢別では「家具などが倒れて」けがした人は、50歳以上に集中している。

一方、けがをした人は、仙台・周辺部と仙北内陸部に集中し、地震の強さにはほぼ比例している。

◇ けがの67%は自宅で手当

「けがの程度」では、50歳以上の人に「重傷」がかたよっており大部分の人は「家で手当」(67%)をし、病院などに「歩いて」行った人は17%、「マイカーで」病院に行った人は9%となっている。

一方、病院では70%の人が「すぐ手当をうけることができたが、けが人の多かった仙台周辺部や仙北内陸部では病院側の被害などの事情から「待たされた」例が多かった。

〔10〕-1 あなたの家でけがをした人は

	全 県	仙 台 内 陸 部
けがをした人はいない	97.1	98.0
いる	2.9	2.0
家具などが倒れて	26.7	
室内のその他で	46.7	66.7
瓦や壁の破片などで	8.9	33.3
外のその他で	17.7	—

〔10〕-2 病院で手当ができたか

	全 県	仙 台 内 陸 部
けがの程度		
軽 傷	93.0	100.0
重 傷	7.0	—
病院までどのようにして行ったか		
家で手当した	67.4	100.0
救急車で	—	—
マイカーで	8.7	—
歩いて	17.4	—
その他の方法で	6.5	—
病院ですぐ手当できたか		
すぐ手当をうけた	69.0	—
待たされた	31.0	—
二、三の病院を回った	—	—

地 域 別				男 女 別		年 齡 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
96.7	97.0	97.9	95.5	97.5	96.7	95.9	97.6	97.4	97.8	96.7
3.3	3.0	2.1	4.5	2.5	3.3	4.1	2.4	2.6	2.2	3.3
33.3	25.0		37.5	37.5	20.7	25.0	12.5	18.2	40.0	44.4
44.5	50.0	33.3	41.7	43.8	48.3	41.6	62.5	54.6	60.0	22.2
11.1	—	—	8.3	—	13.8	16.7	—	18.2	—	—
11.1	25.0	66.7	12.5	18.7	17.2	16.7	25.0	9.0	—	33.4

地 域 別				男 女 別		年 齡 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
92.3	91.7	100.0	95.7	94.0	92.9	100.0	100.0	100.0	83.3	75.0
7.7	8.3	—	4.3	6.0	7.1	—	—	—	16.7	25.0
61.5	75.0	60.0	69.6	66.7	67.9	75.0	77.8	72.8	50.0	50.0
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
11.6	—	20.0	8.7	5.5	10.6	8.3	—	—	33.3	12.5
26.9	8.3	—	21.7	16.7	17.9	16.7	22.2	18.2	16.7	12.5
—	16.7	20.0	—	11.1	3.6	—	—	9.0	—	25.0
70.0	60.0	100.0	57.1	42.9	88.9	100.0	100.0	25.0	66.7	50.0
30.0	40.0	—	42.9	57.1	11.1	—	—	75.0	33.3	50.0
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3 地震がおさまってからの行動について

〔11〕 地震がおさまったときの心配	〔16〕 地震後、心
〔12〕 地震がおさまったあとの行動	〔17〕 今までの地
〔18〕 地震のあとの道路の混雑	〔18〕 家族の安否
〔14〕 地震直後、情報は何かから得たか	〔19〕 地震後、不
〔15〕 地震直後、何を知らなかった	

【11】 地震がおさまったときの心配

◇ 地震がおさまって、家族の安否をすぐ心配が68%

地震がおさまったとき心配だったこと（重複回答）は、第1位が「家族の安否」、次いで「停電、断水、ガスの供給」、「火災の発生」「建物などの損壊」の順となっている。男女別には、家族の安否、停電などの心配では女性、火災の発生や津波の心配は男性が高くなっている。年齢階層別には「家族の安否」は青年層が高く、高年齢層になるに従って低くなるが「停電、ガス」を心配している。

また、地域別では、仙北沿岸部が「津波の発生」を第1位に答えており、沿岸部住民の最も大きな関心は津波であることが明らかである。

仙台・周辺部では「火災の発生」や「停電」「食料品の確保」などの心配が他の地域より高くなっている。

〔11〕 地震がおさまったとき、心配だ

	全 県	仙 南 内 陸 部
火災の発生	42.8	43.8
ガソリンスタンドなどの爆発	3.9	5.2
津波の発生	22.2	8.5
停電、断水、ガスが止まらないか	50.3	43.1
交通マヒ	20.0	14.4
食料品の確保	13.0	7.2
建物などの損壊	32.9	50.3
家族の安否	68.2	73.2
その他	2.8	1.3
わからない	0.9	2.0

強く感じたのは
この体験が役立ったか
はいつ知ったか
便なこと

ったことは何か（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
44.8	41.5	38.8	47.2	47.1	38.8	43.3	41.8	41.3	47.6	40.6
4.2	3.5	2.9	3.3	3.6	4.2	3.0	3.9	3.2	4.4	5.4
17.1	8.7	67.9	11.8	24.6	19.8	22.5	24.9	18.9	25.1	19.2
54.6	48.5	45.4	56.5	47.1	53.4	41.9	48.7	50.6	54.6	57.7
26.7	12.7	14.6	26.8	22.3	17.8	21.8	20.8	20.9	21.0	14.2
18.9	6.0	11.7	25.1	9.6	16.4	11.7	13.4	16.0	12.2	10.9
48.4	55.7	39.6	47.0	37.3	28.6	32.2	32.6	32.8	35.4	31.4
72.9	65.2	56.3	76.3	66.3	69.9	72.8	74.2	67.4	67.9	55.2
2.9	3.0	2.9	3.1	3.7	1.8	4.7	2.4	1.5	1.5	4.2
0.7	1.2	0.4	0.2	0.5	1.3	1.3	0.3	0.6	1.1	1.7

【12】 地震がおさまったあとの行動

◇ 地震後、家の中や周辺を点検、家族の安否を確認。

自宅にいた人は、地震がおさまってから何をしたか（重複回答）をみると、「家の中の点検」（85％）が第1位、次いで「家の周辺の点検」（64％）、「家族安否確認の電話」（57％）となっており、大半が家の中や家の周辺を点検していることがわかる。

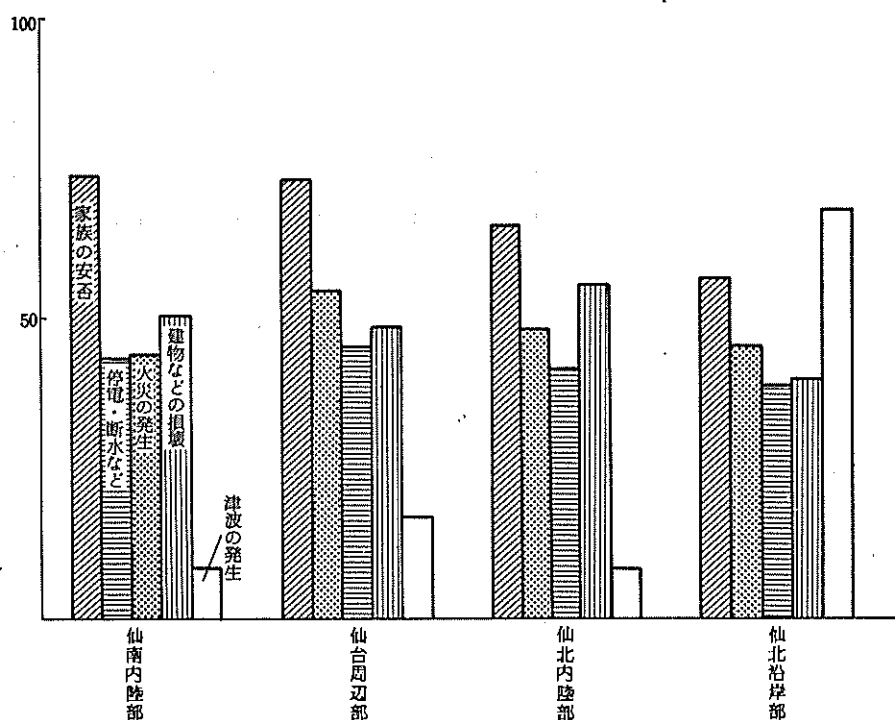
このことは男女別、年齢階層別もほぼ同様である。

しかし、地域別では、若干の差異がみられ、仙台・周辺部では「食料品の買い求め」や、「ガス、水道の点検」が高い反面、「家の周辺の点検」が低く、とくに仙台・泉地区など都市部は「ガス・水道などの点検」を第1にあげている。

〔12〕-1 （自宅にいた人に）地震がお

	全 県	仙 南 内 陸 部
家族安否確認の電話	57.2	63.8
隣近所との連絡	32.6	39.1
食料品の買い求め	13.4	7.2
家でちっとしていた	4.2	1.4
家の中の点検	85.3	88.4
家の周辺の点検	64.0	76.8
ガス・水道などの点検	49.8	47.8
その他	7.1	8.7
わからない	0.3	—

地震がおさまったとき、心配だったことは



しまったあと、何をしたか（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
59.5	47.6	70.8	61.7	61.4	54.8	76.6	58.0	59.3	64.3	39.9
31.2	31.4	33.8	37.7	29.7	34.3	29.9	34.4	34.3	38.5	26.2
16.7	8.4	16.9	22.7	8.9	15.8	16.9	15.3	15.0	11.2	10.7
5.6	2.6	5.4	5.8	2.5	5.2	1.3	3.8	2.9	4.9	6.5
90.0	78.0	84.6	87.0	86.4	84.6	94.8	89.3	93.6	80.4	75.0
58.0	60.2	68.5	53.2	80.1	55.1	63.6	67.2	57.9	64.3	66.7
54.3	45.5	47.7	62.3	49.2	50.1	51.9	58.8	48.6	46.9	45.2
8.9	5.2	5.4	10.4	8.9	6.1	9.1	6.1	7.1	8.4	6.0
0.4	—	0.8	—	—	0.5	—	0.8	—	0.7	—

◇ 外にいた人は急いで家へ

地震発生するとき自宅にいなかった人は地震のあとは「家へ急いだ」と答えたものが69%と最も多く、その大半は、マイカーや徒歩で帰宅していた。

これは男女別、年齢階層別、地域別についてもほぼ同様で、とくに男性は「マイカーで」女性は「歩いて」帰った者が多い。

「職場等にもどった」は4%で、年齢層では30～39歳、40～49歳、50～59歳に高く、地域別では仙台・泉地区など仙台・周辺部で高くなっている。

〔12〕－2（自宅にいなかった人に）地

	全 県	仙 南 内 陸 部
家人への連絡	23.2	21.3
家へ急いだ	68.8	72.0
マイカーで	38.4	38.9
バス・タクシーで	18.1	14.8
他人の車で	6.3	5.6
自転車・バイクで	10.8	13.0
歩いて	26.3	27.8
職場等にもどった	4.1	2.7
どうしてよいかわからない 状態	0.8	—
その他	3.1	4.0

【13】 地震のあとの道路の混雑

◇ 地震直後の道路渋滞に冷静に対処

地震直後、都市部の道路は渋滞がはなはだしかったが、この中でドライバーは「あせった」6%、「イライラした」が5%を示した。しかし、その他の人は、「ひどいと思った」が27%、「じっくり待った」が5%、「何とも思わなかった」が3%と意外に冷静に対応していた。

また、農村部では、交通渋滞はあまりみられず、むしろスムーズに通れたものが多かった。

地域別には、仙台・周辺部では渋滞がひどかっただけに他の地域よりあせった人も多い

が、それでも「あせった」と「イライラした」を加えても16%で、全県に比べ、仙北内陸部、仙北沿岸部では「渋滞しなかった」、「スムーズに通れた」の合計が73%、64%となった。

〔13〕（自動車であつた人に）地

	全 県	仙 南 内 陸 部
一刻も早く家にとあせった	6.2	4.4
ひどい渋滞でイライラした	4.6	2.2
地震のあとで渋滞はひどい と思った	27.2	20.0
じっくり待った	4.6	4.4
渋滞になれているので何と も思わなかった	3.3	8.9
そんなに渋滞していなかつた	32.6	26.7
スムーズに通れた	21.3	33.3

漫がおさまったあと、まず何をしたか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
20.9	28.9	17.8	19.0	25.2	20.4	29.0	19.1	20.8	24.8	20.8
69.8	64.7	75.5	72.4	65.1	74.2	68.6	72.3	72.4	67.8	67.2
29.9	50.8	48.6	26.2	53.7	19.1	39.0	51.5	36.7	31.7	14.0
27.7	6.2	5.4	34.2	13.7	23.7	17.6	14.7	17.3	22.0	25.6
6.1	8.5	4.1	5.4	6.7	5.9	5.1	5.1	8.6	4.9	9.8
11.2	10.8	8.1	10.4	10.3	11.4	9.6	10.3	13.7	8.5	11.6
25.2	23.8	33.8	23.8	15.7	39.8	28.7	18.4	23.7	32.9	39.5
5.3	2.5	4.1	6.1	5.9	1.6	3.3	5.3	4.2	4.1	3.1
0.8	1.0	1.0	0.7	0.2	1.6	0.5	0.5	1.0	—	3.1
3.3	3.0	2.0	1.8	3.7	2.2	3.1	2.7	1.6	3.3	6.3

漫のあと、道路の混雑はどうだったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
9.3	1.0	6.7	11.6	5.1	8.2	6.6	8.3	5.1	3.8	4.3
6.7	1.0	6.7	7.2	5.9	2.2	6.6	2.8	4.0	3.8	8.7
36.6	19.0	13.3	38.4	25.9	29.9	31.1	25.7	26.3	23.1	30.4
4.1	4.8	6.7	4.3	5.9	2.2	4.7	6.4	1.0	9.6	—
3.6	1.0	2.2	2.9	3.5	3.0	2.8	3.7	3.0	5.8	—
26.8	42.9	40.0	26.8	33.7	30.6	29.2	31.2	37.4	28.8	43.5
12.9	30.5	24.4	8.7	20.0	23.9	18.9	22.0	23.2	25.0	13.0

【14】 地震直後、情報は何かから得たか

- ◇ 地震直後の情報は、ラジオから81%、
テレビから29%

地震直後の情報は、何かから得たかについては「ラジオ」から得たが81%にも達し、「テレビ」からの29%を大きく引きはなしている。地震直後は、県下の大半が停電しているため情報はラジオにしか頼れなかった事情を強くあらわしている。ラジオ、テレビに続いて隣近所の口コミ、電話による情報伝達が11%もあることがわかった。

これは災害によって通信網などの機能が破壊された場合の有力な方法であることがわかる。それだけにこれらの

ルートに正しい情報を早くのせる対策も今後の課題となる。このほかは、「家族から」9%、「広報車」8%などがみられる。

しかし、地域別では停電しなかったところと停電したところでは全く事情が異なり、仙南内陸部ではラジオ、テレビがともに65%であるのに対し、停電した地域、とくに仙台・周辺部や仙台・泉地区ではテレビが17%、8%でラジオが85%、89%となっている。

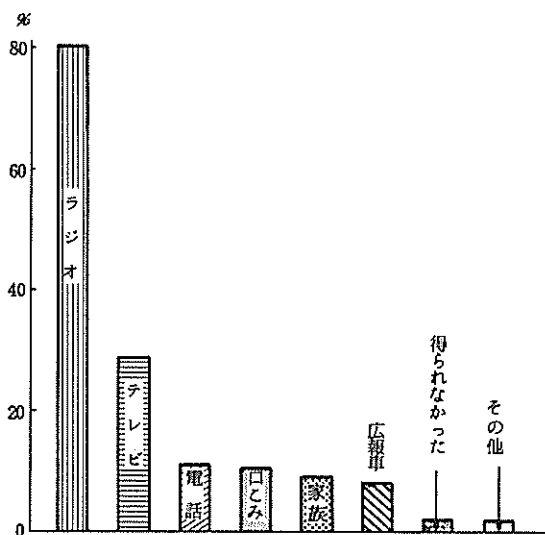
〔14〕 地震直後、情報は何かから得たか

	全 県	仙 南 内 陸 部
ラ ジ オ	80.5	64.7
テ レ ビ	29.1	64.7
隣近所の口コミ	10.5	7.8
家 族 から	9.1	5.9
電 話	10.8	12.4
広 報 車	8.2	2.0
そ の 他	1.3	1.8
何も情報は得られなかった	2.1	0.7

(重複回答)

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
85.4	73.0	89.2	89.1	83.3	77.8	82.6	83.4	81.7	81.9	70.7
16.7	38.6	26.3	8.2	29.7	28.5	24.5	31.5	27.6	30.0	32.6
9.1	13.7	10.8	9.5	7.7	13.2	12.1	11.3	7.6	7.0	15.5
10.8	8.5	7.1	12.0	6.8	11.2	8.1	9.5	8.7	7.4	11.7
11.0	12.4	6.3	12.0	9.4	12.0	10.4	8.0	7.3	13.7	16.7
2.7	6.5	30.8	2.2	7.9	8.4	7.7	8.6	5.8	9.2	10.5
1.4	0.5	2.1	1.8	1.6	0.9	2.0	1.5	1.5	1.1	—
3.0	2.0	0.4	2.9	1.8	2.4	1.3	2.7	2.0	1.9	2.5

地震直後の情報は何かから得たか（全県）



【15】 地震直後、何を知りたかったか

◇ 地震直後、知りたいことはまず「余震」(74%)、続いて被害状況(62%)

地震直後に情報として何を知りたかったかについては、余震の心配が74%で最も高く、「被害状況」を知りたいが62%でこれに次ぎ、以下「水道、ガスの心配」「火災や津波の心配」が38%、「家族の安否や家の被害」が35%となっている。

男女別には、男性が、「被害の状況」「家族の安否」「火災や津波」「交通情報」が高く、女性では「余震」「水道、ガスが大丈夫か」「生活用品が大丈夫か」に関心が高く、年齢階層別ではそれ程の差異はない。

また、地域別には仙台周辺部が家族の安否や、水道、ガス、生活用品などへの関心度が高く、仙北内陸部では津波(73%)となっている。

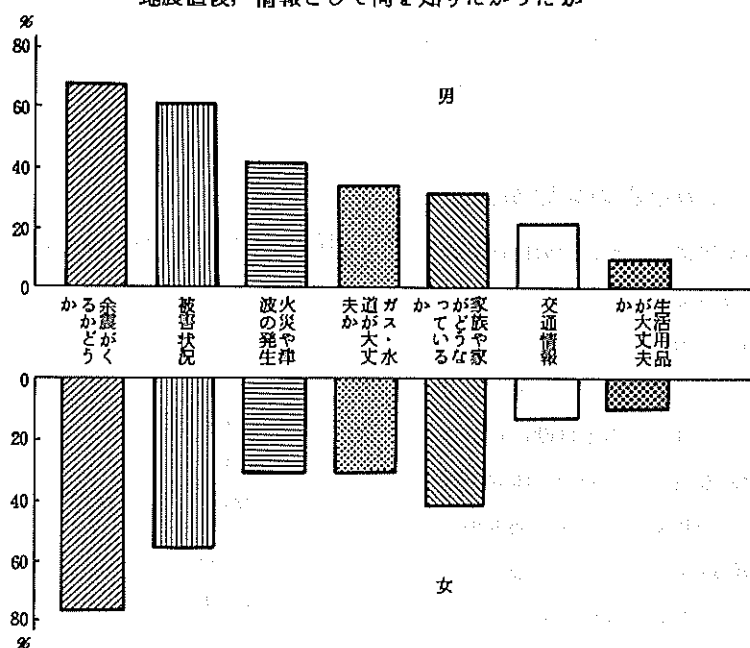
〔15〕 地震直後、情報として何を知りた

	全 県	仙 南 内 陸 部
被害の状況	61.7	69.8
家族や家がどうなっているか	35.1	35.8
火災や津波の発生	37.7	24.2
交通 情 報	18.1	20.9
余震がくるかどうか	73.7	73.2
水道・ガスなどが大丈夫か	37.5	22.2
生活必需物資が大丈夫か	10.1	4.6
何をすればよいか指導・連絡など	9.5	9.2
そ の 他	1.3	1.3

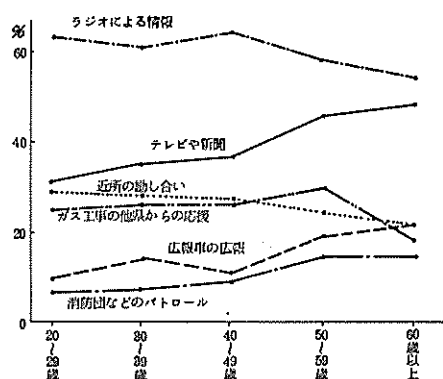
かったか（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
64.1	63.2	47.5	39.0	65.0	58.6	59.1	60.5	57.3	66.4	64.4
41.4	31.6	22.9	45.5	36.4	33.9	42.3	36.5	35.5	34.3	24.7
34.6	27.4	72.5	33.3	41.7	33.8	30.5	39.5	36.9	45.4	37.2
18.6	18.9	13.8	14.6	20.8	15.6	15.4	12.5	20.6	22.5	20.9
57.2	78.9	71.3	68.7	68.8	78.4	70.1	76.3	73.3	70.5	78.7
47.4	32.3	27.5	55.0	32.4	42.5	31.5	37.1	38.1	38.8	43.5
14.7	7.0	5.4	18.9	9.9	10.3	4.7	11.3	12.5	8.5	13.4
10.1	8.7	9.2	10.2	8.2	10.7	12.8	9.8	6.4	7.8	11.3
1.3	1.2	1.3	1.1	2.5	0.1	2.4	1.2	0.6	0.7	1.7

地震直後、情報として何を知りなかったか



【16】 地震後、心強く感じたのは



- ◇ 「ラジオによる情報」(61%)が第1位、隣同志の声かけあいも大きなはげみに

地震後、心強く感じたものは、「ラジオによる情報」が61%で最も高く、次いで「テレビや新聞の情報」39%、つづいて「隣近所の助け合い」、「ガス工事などの他県からの応援活動」などとなっている。このほか、「広報車の広報」、「警察・消防団などのパトロール」、「市町村などの援助活動」も民心の安定に効果を示している。結局、「感じたことはない」がわずか4%で、ほとんどの人が心強く感じたものがあり、地震時において、住民に安心感を与える活動の必

〔16〕 地震後、心強く感じたのは何か

	全 県	
	仙 内	南 陸 部
広報車の広報	14.5	7.2
隣近所の助け合いや協力	26.0	24.8
県や市町村の救助活動など	9.3	8.5
ガス復旧工事などの他県からの応援活動	25.9	17.7
ラジオによる情報	61.0	45.8
自衛隊の救援活動	6.3	9.8
警察・消防団などのパトロール	11.2	9.8
町内会などの援助活動	2.4	2.6
テレビや新聞などの情報	38.6	51.0
そ の 他	2.5	1.3
感じたことはない	4.0	3.9

【17】 今までの地震の体験が役立ったか

- ◇ 58%の県民は、これまでの地震の体験が「役立った」

2月20日の地震など、今までの地震の体験が、今回の地震で役立ったかどうかについては、「若干は役に立った」が39%で最も高く、ついで「体験で落ちついて」が19%と合わせて58%がこれまでの体験が役立ったと評価している。しかし「わからない」(23%)

は役立になかったものと理解され、役立になかったと合わせると40%に達する比率になる。男女別では、男性は「体験で落ちついて」行動できたが高く、女性は「全く役立になかった」が高く

〔17〕 今までの地震(たとえば2月20

	全 県	
	仙 内	南 陸 部
全く役立になかった	17.0	24.0
若干は役に立った	38.7	38.0
体験で落ちついて行動できた	19.1	12.0
わからない	22.9	24.0
そ の 他	2.3	2.0

（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
7.5	18.2	38.3	6.2	14.5	14.5	9.7	13.7	10.8	19.2	21.8
26.2	26.9	24.6	30.8	20.8	31.0	26.5	28.8	28.2	25.1	21.8
8.9	8.7	12.1	7.8	9.6	9.1	9.1	7.4	7.9	10.0	13.8
40.5	12.7	10.8	50.8	25.4	26.3	24.5	27.0	27.9	29.5	18.8
67.2	50.8	69.2	73.2	61.4	60.6	62.8	61.1	64.8	58.7	55.7
6.9	4.7	4.6	6.0	5.8	6.7	3.0	5.0	8.1	8.5	6.7
7.9	12.2	20.0	7.1	11.9	10.6	8.1	8.0	10.8	15.9	15.1
2.9	1.7	2.1	3.3	2.2	2.6	1.3	2.4	3.3	2.2	2.1
37.8	40.1	30.4	36.8	37.4	39.7	31.2	35.0	36.9	45.8	46.9
2.6	3.5	1.3	1.6	3.3	1.7	3.4	3.6	2.3	1.1	1.7
2.9	7.2	1.7	0.9	3.3	4.6	5.0	3.3	2.9	4.4	4.6

要性がわかる。

年齢階層別では、青年層では「ラジオによる情報」、高年齢層では「テレビや新聞の情報」が高い比率を示している。

地域別には、それぞれの地域の実情で異なるが、仙南内陸部では「テレビや新聞」、仙台周辺部は「ガス復旧工事」、「ラジオ」、仙北沿岸部では「広報車」、「消防団のパトロール」となっている。

日の地震)の体験が役立ったと思うか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
17.9	14.3	14.2	21.4	15.3	18.6	20.1	20.4	16.5	11.9	14.6
38.1	38.9	40.8	36.8	38.5	39.0	38.8	38.3	39.1	42.4	35.1
15.5	27.8	19.6	15.8	23.6	15.8	12.1	15.3	18.5	23.8	28.9
24.9	18.3	24.2	22.8	20.3	24.4	26.5	24.3	24.1	20.5	17.6
3.6	0.7	1.2	3.2	2.3	2.2	3.0	1.7	1.8	1.4	3.8

なっており、年齢階層別では、青年層が「全く役立たなかった」、高年齢層は「落ちついて」行動できたが高くなっている。

【18】 家族の安否はいつ知ったか

◇ 家族の安否は「家族が帰ってきて」

51%、「電話」が38%

家族全員の安否を何によって知ったかをみると、「家族が帰ってきて」が51%で最も多く、ついで「電話で」が38%となっている。この傾向は、男女別、そして地域別にはほぼ同様となっている。

◇ 安否がわかったのは、1時間以内（48%）、2～3時間（29%）そして、「翌日になってから」が4%も

安否がわかったのは、1時間以上が48%、2～3時間が29%で、大半の人は2.3時間の間に安否だけは知ったことになるが、電話、そのほか事情によっては、もっと長い時間安否すらわからなかった人も多く、「翌日になってから」やっとわかった人が4%あった。

男女別、年齢層別、地域別にも大きな差はなくほぼ同様の傾向となっている。

〔18〕－1 家族全員（最もおそかった家

	全 県	仙 南 内 陸 部
電 話 で	37.7	44.8
家族が帰ってきて	51.1	48.1
よその人から連絡で	1.6	—
そ の 他	8.6	7.1
家族がいない	1.0	—

〔18〕－2 家族全員の安否がわかったの

	全 県	仙 南 内 陸 部
1時間以内	48.2	45.3
2～3時間	28.7	30.7
4～5時間	14.0	14.7
6～7時間	5.1	4.0
翌日になってから	4.0	5.3

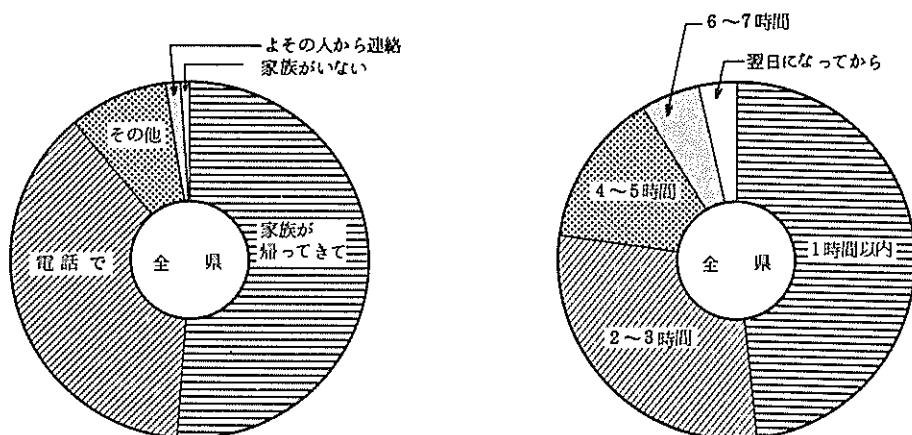
族について)の安否を何によって知ったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
37.4	36.8	36.3	36.4	36.0	39.3	35.6	38.9	37.6	48.9	31.7
52.2	50.1	51.7	53.2	52.4	49.9	51.2	48.1	53.6	46.9	56.7
1.4	2.0	2.1	2.0	1.4	1.7	2.4	2.7	0.6	0.4	1.6
7.8	11.8	7.1	6.7	9.5	7.6	8.8	9.5	7.0	7.8	10.0
1.2	0.3	2.8	1.7	0.7	1.5	2.0	0.8	1.2	1.0	—

は地震発後、何時間ぐらいたってからか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
42.4	52.6	57.5	41.0	51.4	45.2	45.4	53.9	49.9	48.2	46.6
32.0	23.2	30.3	36.1	28.2	29.1	28.5	29.3	27.8	27.7	30.5
17.0	10.8	9.2	14.7	11.8	16.0	18.6	10.8	12.5	15.9	12.6
5.6	6.8	1.3	5.4	4.4	5.8	3.4	2.7	6.6	8.8	4.9
3.0	6.6	1.7	2.8	4.2	3.9	4.1	3.3	3.2	4.9	5.4

家族の安否は何によっていつ知ったか



【19】 地震後、不便なこと

◇ 地震後の不便さは「電話の不通」が
最高で64%

地震後、非常に不便さを感じたものは、「電話が不通」が64%で最も高く、ついで「テレビ」(38%)、「水」(33%)となり、以下20%台の「ガス」10%台の「交通混雑」、「交通機関の不通」の順となっている。これは男女別、年齢階層別にもほとんど変りない。しかし、地域別には停電や断水などの関係で、仙南内陸部では「テレビ」、「水」が低く、反面「交通混雑」、「交通機関の不通」が高くなっており、仙台・周辺部では「電話不通」、「交通機関の不通」が低く、「交通混雑」、「ガス」、「水」が高くなっている。

仙北内陸部、仙北沿岸部はほぼ同じ傾向で、「電話の不通」、「テレビ」が高く、「交通混雑」が低くなっている。

〔19〕 地震後、非常に不便を感じたのは

	全 県	
	仙 台	南 内陸部
テレビが使えなかった	38.0	24.2
水が出なかった	32.8	17.0
ガスが出なかった	21.8	2.0
トイレが使えなかった	4.2	2.0
電話が不通だった	64.2	69.3
交通混雑	12.6	17.0
代替燃料の不足	5.0	—
交通機関の不通	11.8	19.6
食料品など生活必需品の不足	6.4	1.3
その他	9.6	4.6
不便なことはなかった	4.7	9.8

何か（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
36.9	40.1	46.7	38.8	40.9	35.2	34.2	35.9	33.4	42.8	46.9
39.1	24.6	38.8	39.5	31.6	34.0	34.2	34.7	37.2	30.0	25.5
39.6	5.2	10.8	58.8	20.5	23.1	21.8	23.7	22.4	20.7	19.7
6.9	2.2	1.3	8.9	4.1	4.4	3.4	4.8	6.1	3.7	2.5
34.4	68.4	56.7	62.8	61.7	66.6	63.1	63.2	66.0	64.9	63.6
14.8	10.2	10.8	14.4	16.7	9.1	18.5	13.1	12.2	11.4	8.0
8.4	0.8	1.8	12.9	4.4	5.7	3.4	5.3	6.4	5.9	3.8
9.7	11.9	12.5	6.7	11.4	12.1	13.8	11.9	11.1	11.4	10.5
9.5	3.2	5.8	12.6	5.9	6.9	7.7	9.2	4.9	5.5	3.8
8.8	12.4	10.4	9.1	10.7	8.6	8.7	9.2	10.2	11.1	8.8
2.0	8.5	2.9	1.3	5.1	4.4	3.4	5.0	2.6	5.5	8.0

4 地震の被害や生活への影響などについて

〔20〕 家屋の被害状況	〔27〕 地震後の都
〔21〕 宅地・へいなどの被害状況	〔28〕 地割れなど
〔22〕 家具、建物、宅地・へいの被害額	〔29〕 地震以来20
〔23〕 事業や事業所などの被害	〔30〕 地震後、買
〔24〕 地震後の電気の状態	〔31〕 生活用品の
〔25〕 地震後の電話の状態	〔32〕 地震後、生
〔26〕 地震後の水道の状態	

【20】 家屋の被害状況

◇ 大きかった家屋の被害、40%で何らかの被害

今回の地震では家屋そのものに被害を受けたものが全体の40%近くに達し、また、ほとんどの家で何らかの被害をうけている。

地域別には、仙台・周辺部、仙北内陸部では、被害の程度が大きく、特に家屋の被害がはなはだしい。地域別にみると、仙台・泉地区での家屋の被害は43%、また、仙北内陸部では「家が倒れたり」が2%にも達し、また、仙南内陸部、仙北沿岸部でも多くの家で、食器や家具の破損、倒壊などがあった。

〔20〕 あなたの家の家屋の被害はどの程

	全 県	仙 南 内 陸 部
物が落ち、花びん、食器がこわれた	48.2	62.0
浴場のタイルや壁にひびが入った	18.3	20.3
タンス・戸棚が倒れ、家具がこわれた	13.3	7.0
瓦がとんだり、壁が落ちるなどかなりの被害	15.9	9.5
柱がおれ、建物が傾くなどの被害だが大修理すれば使用できる	3.3	1.2
家が倒れたり、立っていても修理不能	1.0	—

市ガスの状態

への影響

日たったいま、困っていること

物が不便だったか

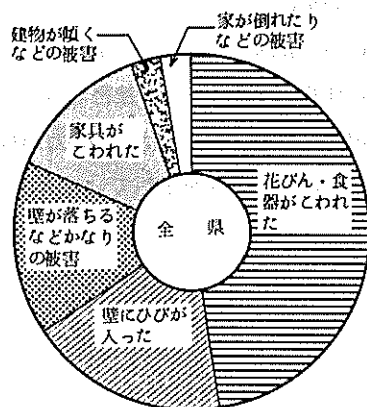
不足などで困ったか

活用品の価格はどうだったか

度か

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
39.9	48.7	62.3	35.0	47.0	49.4	51.1	53.7	44.4	42.4	49.2
20.3	15.1	16.8	18.5	17.3	19.3	17.9	16.3	17.8	23.9	15.7
17.0	11.8	9.4	22.0	13.4	13.1	14.0	15.4	14.2	10.1	11.7
19.3	16.7	9.0	20.5	17.4	14.0	13.4	12.2	16.7	18.8	19.8
3.0	5.4	1.6	3.3	3.0	3.5	2.3	1.8	6.4	3.3	2.0
0.5	2.3	0.9	0.7	1.5	0.7	1.3	0.6	0.5	1.5	1.6

家屋の被害はどの程度か



【21】 宅地・へいなどの被害状況

◇ へいの被害は、仙台・泉地区に集中

宅地・へいの被害は27%で、そのうち「へいや石垣にひびが入った」(11%)、「へいや石垣がくずれた」(5%)、「へいや石垣が全部倒れた」(5%)などの被害は、21%に達している。地域別には、家屋の被害同様仙台・周辺部、とくに仙台・泉地区での被害は30%で、他地域の被害規模を大きく超えていて、地震被害の地域差が大きくなっている。また、「宅地に地割れができた」という深刻な例も、地域差はあるものの全体の7%に達している。

(21) 宅地・へいなどの被害はどの程度

	全 県	仙 南 内 陸 部
宅地・へいの被害はない	72.2	83.2
宅地に地割れができた	7.3	6.0
へいや石垣にひびが入った	10.7	5.4
へいや石垣がくずれた	4.7	2.0
へいや石垣が全部倒れた	5.1	3.4

【22】 家具、建物、宅地・へいの被害額

◇ 家具の被害は「あまりない」60%、「10万円程度」の被害が26%で大半

家具の被害額では、「被害があまりない」とするものが60%に達している。次いで、被害額が「10万円程度」とするものが26%を占めている。全般に家具の被害見積りは、その基準がいまいであるところから、回答にあたっては食器などの被害額と家具の修理代とは判断できないケースも多いが、一応調査結果では、10万円前後が一般的であったことがわかる。

地域別には、仙南内陸部、仙北沿岸部では、「被害があまりない」が多く、被害程度が少なくなっているが、仙台・周辺部、仙北内陸部では、「10万円程度」「10万円～20万円程度」が30～40%にもなり、かなりの被害程度を示している。

(22)-1 あなたの家の家具の被害額は

	全 県	仙 南 内 陸 部
被害はあまりない	60.2	76.4
10万円程度	25.9	19.6
10～20万円程度	8.0	3.4
20～50万円程度	4.8	—
50～100万円程度	0.7	0.6
100万円以上	0.4	—

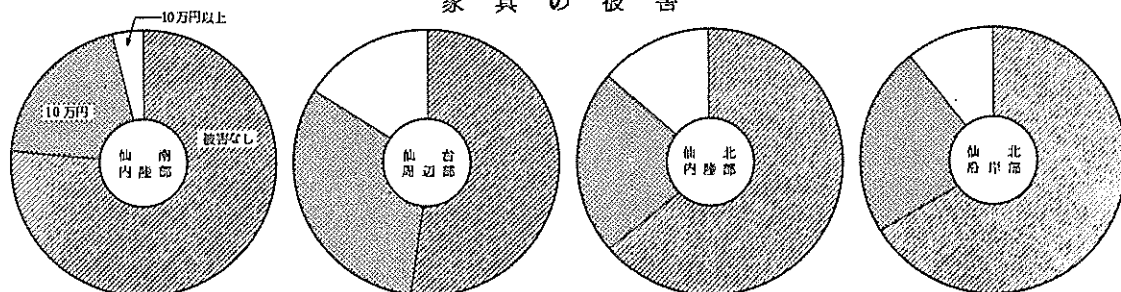
か

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
65.6	77.4	75.6	63.4	71.8	72.6	75.7	75.1	71.5	67.8	69.6
5.7	8.9	10.2	6.7	7.5	7.2	6.6	8.1	7.7	8.7	5.2
14.4	9.1	5.7	19.4	10.9	10.5	7.6	9.0	16.0	10.5	9.6
6.4	2.6	4.9	7.2	4.9	4.6	5.3	4.6	1.7	7.3	5.6
7.9	2.0	3.6	3.3	4.9	5.1	4.8	3.2	3.1	5.7	10.0

およそいくらか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
52.3	64.3	66.7	43.2	57.0	63.6	58.3	58.3	58.9	64.8	62.8
31.6	20.7	22.5	36.5	27.5	24.3	27.8	31.3	24.6	22.7	21.5
9.9	9.1	3.6	13.2	8.2	7.8	9.6	5.2	9.7	6.5	9.1
5.4	4.8	6.4	6.0	5.8	3.7	3.6	4.1	5.4	5.0	5.8
0.7	1.0	—	0.9	0.8	0.5	—	0.9	1.1	0.3	0.8
0.1	0.6	0.8	0.2	0.7	0.1	0.7	0.2	0.3	0.7	—

家 具 の 被 害



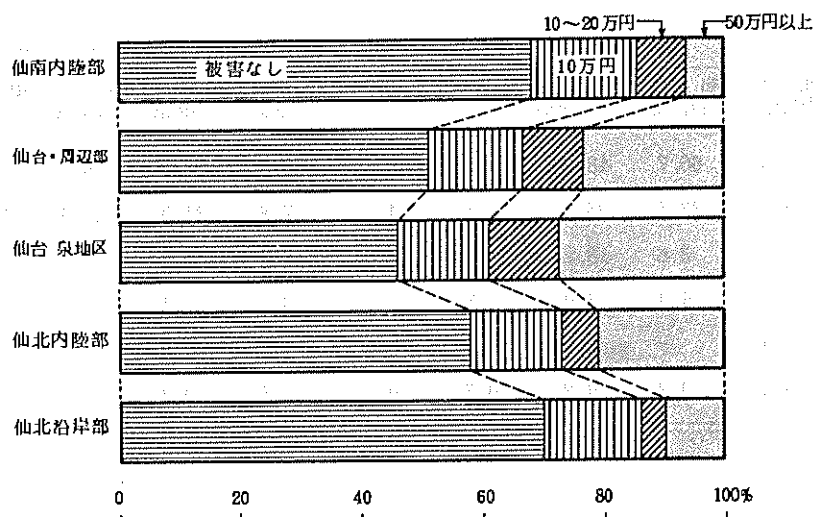
◇ 建物の被害は、仙台・周辺部、仙北沿岸部で大

建物については、「被害はあまりない」とするものが60%近くに達しているが、反面、100万円以上の多額の被害が出ているとしているものも6%あった。地域別では100万円以上の被害が出たのは、仙北内陸部で9%となり、仙台・泉地区でも7%となっている。

建物の被害額は、その建物の時価でみるか、復旧費でみるかという問題があるが、おおむね被害は10万円から50万円程度とみている人が多いようだ。

〔22〕－2 建物の被害額はおおよそいく

	全 県	仙 南 内 陸 部
被害はあまりない	57.5	68.1
10 万円 程 度	15.6	17.5
10 ～ 20 万 円 程 度	7.6	7.8
20 ～ 50 万 円 程 度	8.4	2.6
20 ～ 100 万 円 程 度	4.9	0.7
100 ～ 300 万 円 程 度	3.6	2.0
300 ～ 500 万 円 程 度	1.1	1.8
500 万 円 以 上	1.3	-



らか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
51.1	58.1	69.7	45.8	54.9	60.5	57.3	63.3	57.4	52.6	56.8
15.5	14.8	16.0	15.3	15.5	15.6	19.9	11.3	14.8	14.9	18.0
9.8	5.7	4.1	11.5	8.8	6.3	7.5	7.9	7.1	8.4	6.9
11.9	6.7	4.9	13.7	9.1	7.7	6.2	7.0	9.4	10.2	9.8
5.8	6.0	3.3	6.6	5.9	3.9	4.9	4.4	4.6	6.6	4.5
3.7	5.2	1.2	4.2	3.4	3.7	2.0	4.4	4.3	4.0	2.9
1.3	1.1	-	1.8	0.9	1.2	1.3	0.6	1.7	0.7	0.8
0.9	2.4	0.8	1.1	1.5	1.1	0.9	1.1	0.7	2.6	0.8

◇ 宅地・への被害はやや少なく、あっても「10～20万円」が大半

宅地・への被害は、家具や建物にくらべ、かなり少なく、81%の家では被害がなく、被害があっても、「10万円程度」、「10万円～20万円程度」になっている。

地域別では、仙南内陸部、仙北内陸部、仙北沿岸部ではほとんどが「被害がない」と答え（90%）、被害があっても「10万円程度」もしくは「10～20万円程度」である。これに対し、仙台周辺部や仙台・泉地区では「被害はない」は70%におちこんでいて、同地域への被害の集中がここでもうかがわれる。被害は「10万円程度」と「10～20万円程度」が多い。

〔22〕－3 宅地・への被害額はおおむ

	全 県	
	仙 北	南 内陸部
被害はあまりない	81.2	88.8
10 万円程度	7.6	4.0
10～20 万円程度	5.0	4.0
20～50 万円程度	4.0	1.9
50～100 万円程度	1.3	1.3
100 万円以上	0.9	-

【23】事業や事業所などの被害

◇ 事業所の被害は大半が商品の被害

貸家や事業をしている人の被害をみると「貸家や事業がない、被害がない」が85%、被害があったのは15%であった。しかし、「被害があった」と答えた人のなかで、「商品などに被害」があったと回答した人が56%を越し、これについて事業の施設や機械に被害を受けた人が20%となっている。地域別では、仙台・周辺部は「被害があった」が12%で他地域より若干低く、その内容も「商品に被害」（48%）「事業施設に被害」（13%）と全県平均より低い値を示している。しかし、逆に「貸家被害」（37%）は高くなっている。この傾向は、仙台・泉地区では、もっと明白となっている。

〔23〕 住宅以外の事業や事業所などの

	全 県	
	仙 北	南 内陸部
貸家や事業がない・あるが被害はなかった	85.4	85.4
被害があった	14.6	14.6
貸家に被害	21.2	4.4
商品などに被害	56.2	69.6
事業施設や機械に被害	19.8	17.4
事業ができない程の被害	2.8	8.7

ねいくらか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
75.4	85.5	86.1	69.7	80.5	82.0	80.3	83.3	81.8	77.7	82.4
9.4	8.0	3.7	11.5	7.3	7.8	10.2	6.1	7.8	7.7	5.7
6.4	2.4	5.7	8.9	5.5	4.5	3.9	5.3	4.9	5.1	5.7
5.1	3.2	3.7	5.1	4.9	3.1	3.3	3.8	4.0	5.1	4.1
2.3	0.2	0.4	3.3	0.9	1.7	1.3	1.2	1.2	1.8	1.3
1.4	0.7	0.4	1.5	0.9	0.9	1.0	0.3	0.3	2.6	0.8

被害はなかったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
88.1	83.6	82.8	88.3	83.2	88.3	86.6	88.3	82.8	87.4	83.3
11.9	16.4	17.2	11.7	16.8	11.7	13.4	11.7	17.2	12.6	16.7
36.9	14.7	9.5	43.4	18.1	25.6	19.5	10.0	15.0	28.6	36.6
47.6	54.4	69.1	39.6	52.7	61.1	63.4	60.0	63.3	42.9	46.3
13.1	29.4	19.1	15.1	26.0	11.1	14.6	22.5	20.0	28.0	14.6
2.4	1.5	2.4	1.9	3.2	2.2	2.4	7.5	1.7	-	2.4

【24】地震後の電気の状態

◇ 県下のほとんどの全域（85％）で停電

地震後「停電した」家庭は85％にも及んでいる。地域別では、仙南内陸部では53％と低いが、仙北沿岸部では98％、仙台・周辺部92％などほとんど全家庭で停電した。また、電気の復旧状況は、「その日のうちに回復」が（60％）「2～3日で回復」が（38％）となっているが、仙台・周辺部では「回復するまで6日以上」かかった例もあった。

〔24〕－1 地震後、電気の状態はどうか

	全 県	
	仙 北	南内陸部
停電しなかった	14.9	46.8
停電した	85.1	53.2
その日のうちに回復	60.2	97.6
2～3日で回復	37.9	2.4
4～5日で回復	1.8	-
回復するまで6日以上	0.1	-

◇ 停電中はろうそくが頼り、58％も

停電中の対応をみると「ろうそくで間にあわせた」家庭は58％、「電池による電灯などを使用した」家庭は31％で、ほとんどがろうそく、懐中電灯などで急場をしのいでいた。ろうそくや懐中電灯の備えがなかった家庭や、あっても混乱していて使えなかった家庭では、「暗いところで生活した」（4％）を余儀なくされたわけである。その他（6％）の内容は、自動車のライトや自家発電機などを使用したものが含まれている。

〔24〕－2 停電中、どんな対応をしたか

	全 県	
	仙 北	南内陸部
暗いところで生活した	3.6	7.2
親せきなどよそで生活した	1.2	1.2
ろうそくで間にあわせた	58.1	45.8
電池による電灯などを使用した	31.4	27.7
そ の 他	5.7	18.1

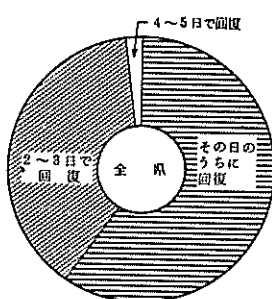
ったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
8.5	24.9	2.2	0.2	17.3	12.9	12.5	15.1	15.7	14.9	16.7
91.5	75.1	97.8	99.8	82.7	87.1	87.5	84.9	81.3	85.1	83.3
51.2	72.0	57.6	43.9	62.5	58.4	64.5	60.9	55.4	60.3	60.7
48.2	27.7	36.4	55.4	36.5	39.0	33.5	37.2	42.4	39.3	36.5
0.5	0.3	6.0	0.7	0.8	2.6	1.7	1.9	2.2	0.4	2.8
0.1	-	-	-	0.2	-	0.3	-	-	-	-

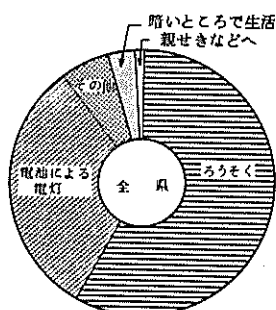
地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
1.4	6.4	4.6	0.9	4.3	2.9	2.6	3.1	3.8	4.2	4.4
1.5	0.6	0.8	2.0	0.6	1.7	2.6	1.4	1.0	-	0.5
61.8	55.9	55.2	61.5	57.2	59.0	57.4	52.1	58.8	57.4	67.2
32.7	27.5	34.4	34.3	32.2	30.7	30.6	37.2	31.6	33.3	22.0
2.6	9.6	5.0	1.3	5.7	5.7	6.8	6.2	4.8	5.1	5.9

地震後の電気の状態

停電の回復



停電中の対応



【25】地震後の電話の状態

◇ 「通話ができなかった」が73%、回復は大半は真夜中に

地震後、家族の安否や被害状況を知ろうと多くの住民が一時に電話に殺到したため、回線の容量がオーバーし、かなり広範囲にわたって通話不能が続いた。アンケートの結果でもほとんどの家庭で「通話ができなかった」(73%)。地域別に見た不通の割合は、仙南内陸部が65%、仙北内陸部、仙北沿岸部が69%に対し、仙台・周辺部では79%に達している。回復状況をみると「すぐ回復」が22%、「2～3時間」が19%と割合に早く回復している。し

かし、当日深夜まで通話ができなかったところもあり、「翌日に回復」も41%に達している。

アンケートの回答の中には、翌朝再び通話ができなかったと報告している例が見られた。

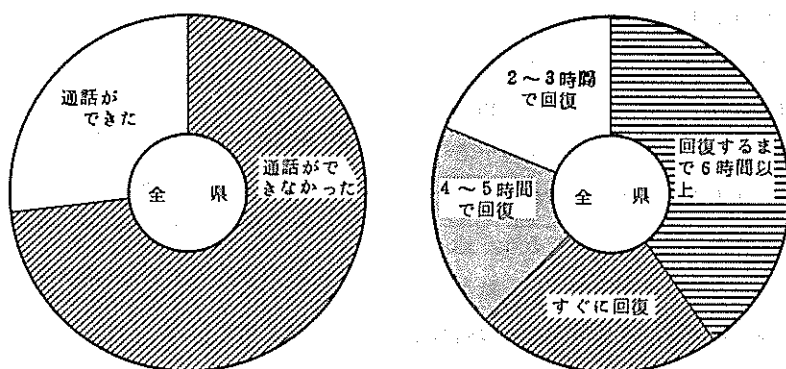
〔25〕 地震後、電話の状態はどうだったか

	全 県	仙 南 内 陸 部
通話ができた	27.1	35.3
通話ができなかった	72.9	64.7
すぐに回復	21.7	25.3
2～3時間で回復	18.6	21.2
4～5時間で回復	19.1	18.2
回復するまで6時間以上	40.6	35.3

たか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
21.0	31.2	31.4	21.0	29.5	24.5	26.5	31.1	25.2	25.8	26.4
79.0	68.8	68.6	79.0	70.5	75.5	73.5	68.9	74.8	74.2	73.6
17.6	21.4	33.5	15.5	22.9	20.6	22.1	19.7	23.4	23.2	19.9
19.6	19.3	12.7	19.3	21.0	16.3	19.0	19.3	17.2	15.5	22.6
21.7	13.0	21.4	21.0	19.2	19.1	20.4	20.0	15.3	20.8	19.9
41.1	46.3	32.4	44.2	36.9	44.0	38.5	41.0	44.1	40.5	37.6

地震後の電話の状況



【26】地震後の水道の状態

◇ 仙台・周辺部、仙北沿岸部では約半数の家庭で断水

地震後、全県の89%の家庭で断水した。しかし、地域別には差があり、仙南内陸部、仙北内陸部では20%台であるのに対し、仙台・周辺部（45%）、仙北沿岸部（50%）は約半数が断水している。回復の状況は半数（51%）が「1日で回復」しているが、中には「回復するまで10日以上」かかった例（8%）もあった。とくに、仙台・泉地区は「回復するまで10日以上」かかった家庭が6%もあった。

◇ 断水のときは「もらい水」と「給水車の水」が命の綱

断水の間中、各家庭では近所の井戸など「もらい水」（31%）や、「給水車の水だけで生活」（16%）、「親せきなどよそで生活」（5%）などさまざまな対応をみせているが、その他49%も高かった。この内容は、マイカーで親せき、知人等から水を運んだケースやくみ置きを利用したものである。地域別にみると仙台・周辺部では「給水車」が高いほかは、各地域ともほぼ同じ傾向となっている。

〔26〕－1 地震後、水道の状態はどうだ

	全 県	仙 南 内 陸 部
断水しなかった	61.2	77.6
断 水 し た	38.8	22.4
1 日 で 回 復	51.3	77.1
2 ～ 3 日 で 回 復	28.0	22.9
4 ～ 5 日 で 回 復	12.6	-
6 ～ 9 日 で 回 復	5.6	-
回復するまで10日以上	2.5	-

〔26〕－2 断水の間、どんな対応をした

	全 県	仙 南 内 陸 部
給水車の水だけで生活	15.5	8.8
親せきなどよそで生活	4.9	-
近所の井戸などのもらい水	30.6	32.4
そ の 他	49.0	58.8

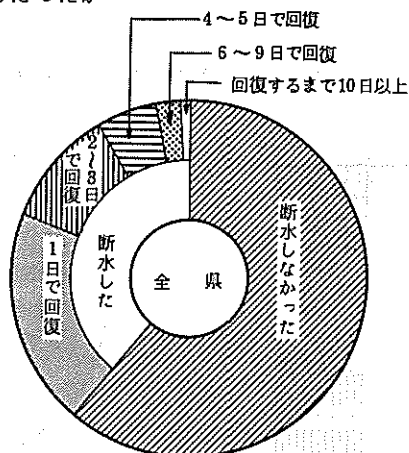
ったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
54.9	71.7	50.4	55.6	61.8	60.6	59.3	61.5	59.4	60.7	66.8
45.1	28.3	49.6	44.4	38.2	39.4	40.7	38.5	40.6	39.3	33.7
48.2	68.4	49.6	45.3	51.7	51.0	49.2	54.7	44.5	51.8	60.2
26.3	22.2	39.7	24.3	29.5	26.6	33.6	27.7	24.7	31.8	20.5
19.3	3.4	6.6	15.9	12.9	12.3	10.9	9.5	20.6	7.3	13.3
7.6	5.1	2.5	8.9	4.5	6.7	5.5	2.2	8.9	5.5	6.0
3.6	0.9	1.6	5.6	1.4	3.4	0.8	5.9	1.3	3.6	-

か

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
23.4	5.4	5.0	23.9	14.2	16.6	10.2	16.2	17.3	16.4	18.1
6.4	3.6	3.3	8.0	5.0	4.8	8.7	3.7	4.3	5.5	1.2
24.9	35.1	41.3	20.7	32.4	29.0	36.2	28.7	32.4	29.1	24.1
45.3	55.9	50.4	47.4	48.4	49.6	44.9	51.4	46.0	49.0	56.6

地震後水道の状態はどうだったか



【27】地震後の都市ガスの状態

◇ 深刻だったガスのストップ、回復するまで10日～20日が大半

都市ガスは、一部の地域を除いて県下全域にわたってほとんど止まった。しかも、回復するまでかなり長期間を要した。「1～3日で回復」した家庭はわずかに11%、半数以上の家庭では長い間ガス欠の生活を余儀なくされた。この結果、前出の地震後大変不便だったのは何かに対しても「ガスが使えなかった」が多くなった。なかでも、「回復するまで16日以上」かかった家庭が23%もあり、深刻な様相をうかがわせた。

◇ 都市ガスの代替には臨時プロパンと電熱器、石油コンロまで動員

「ガス欠」生活の期間中は、「臨時にプロパンを使った」が37%、「電気に頼った」が31%で、このほかにも「普段使っていない石油コンロなどを使った」(22%)例が目立った。

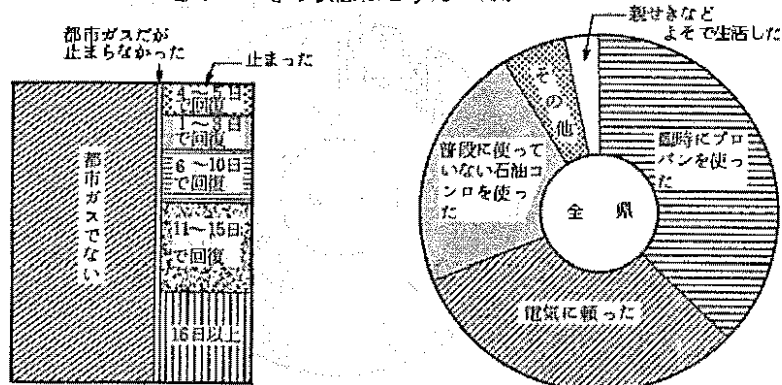
〔27〕－1 地震後、都市ガスなどの状態は

	全 県	仙 南 内 陸 部
都市ガスでない	70.1	98.1
都市ガスだが止まらなかった	2.7	1.9
止 ま っ た	27.2	-
1～3日で回復	10.7	-
4～5日で回復	8.5	-
6～10日で回復	17.5	-
11～15日で回復	31.4	-
回復するまで16日以上	31.9	-

〔27〕－2 都市ガス等が止まっている間

	全 県	仙 南 内 陸 部
電気に頼った	31.4	-
親せきなどよそで生活した	3.4	-
臨時にプロパンを使った	36.7	-
普段使っていない石油コンロなどを使った	22.3	-
そ の 他	6.2	-

都市ガス等の状態はどうだったか



どうだったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
52.5	94.6	81.5	31.6	71.3	68.9	76.2	71.9	61.3	70.2	67.9
2.1	0.5	7.0	0.4	2.8	2.6	2.9	1.8	3.2	3.3	2.5
45.4	4.9	11.5	68.0	25.9	28.5	20.9	26.3	35.5	26.5	29.6
4.1	20.0	82.1	2.6	10.1	11.4	9.4	11.2	4.5	18.8	12.5
7.0	30.0	17.9	7.1	10.6	6.5	6.3	11.2	9.0	7.8	6.3
18.4	40.0	-	18.2	17.8	17.3	17.2	16.9	16.9	14.1	25.0
34.8	10.0	-	35.4	32.5	30.3	39.1	24.7	29.2	29.7	39.6
35.7	-	-	36.7	29.0	34.5	28.0	36.0	40.4	29.6	16.6

どんな対応をしたか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
31.0	30.0	35.7	30.8	28.4	24.1	31.3	34.8	34.8	23.4	29.2
8.5	10.0	-	3.9	2.4	4.3	7.8	2.9	4.5	1.6	-
38.9	20.0	17.9	38.6	40.2	33.5	46.9	36.0	34.8	39.1	25.0
20.9	20.0	39.3	21.1	23.7	21.1	12.5	18.0	21.3	26.6	39.6
5.7	20.0	7.1	5.5	5.3	7.0	1.6	9.0	4.5	9.4	6.3

【28】 地割れなどの生活への影響

◇ 地割れなども仙南内陸部、仙台・周辺部ではかなり県民生活へ影響

地割れやガケくずれなどの生活への影響の状況を見ると、90%は「影響がなかった」となっている。「他の所に避難した」が1%、「通勤や通学に不便」が4%あり、特に仙南内陸部や仙台・泉地区では「他の所に避難した」が1～2%程度もあった。

また、仙台・周辺部や仙北沿岸部では「二次災害のおそれがあり心配だ」とする人。さらに、仙北沿岸部では「通勤や通学に不便だ」もあった。

〔28〕 地割れなどの生活への影響

	全 県	仙 南 内 陸 部
他の所に避難した	0.8	1.8
二次災害のおそれがあり、心配だ	4.4	0.7
通勤や通学に不便だ	3.7	1.8
あまり影響がなかった	89.7	96.0
そ の 他	1.4	0.7

【29】 地震以来20日たったいま困っていること

◇ 20日たったいま「困っている心配だ」が34%、家屋修理の資金調達が筆頭

地震後20日たったいま（調査実施日7月1日現在）、困っていることは何かの問に対し、3分の2の家族が「困っていることはない」（65%）と答え、地震の影響は鎮静化しているが、それでも残りの85%の家ではいまだに、何かと地震の後遺症があることがわかった。困っていることは「家屋修理などの資金調整」（15%）、「二次災害が心配」（9%）など住生活に関連して不安を多く訴えている。

また、その他10%の中には余震を含め、今後地震の発生が心配でならないなどの地震に対する恐怖症的意識が含まれていた。

困っているの筆頭の家屋修理の資金調達は、どの地域でも高く、仙台・周辺部、仙北内陸部では17%、20%にもなっている。

〔29〕 地震以来20日たったいま、困って

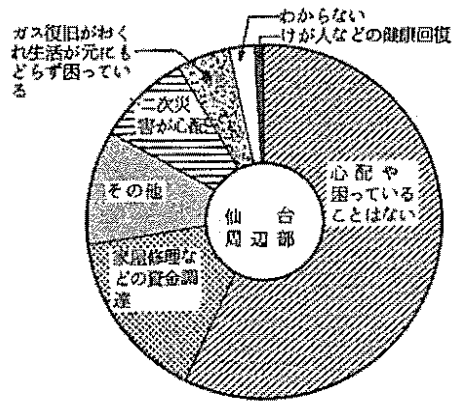
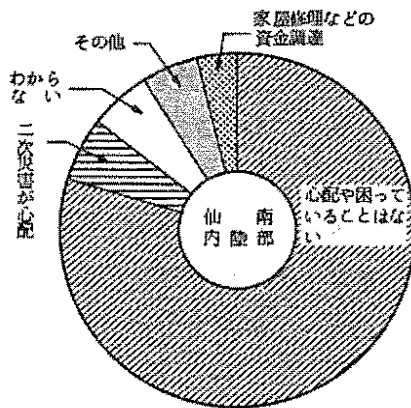
	全 県	仙 南 内 陸 部
心配や困っていることはない	65.2	80.8
二次災害が心配	8.9	5.7
家屋修理などの資金調達	14.5	3.8
ガスの復旧がおくれ、生活が元に戻らず困っている	2.6	-
けが人などの健康回復	0.5	-
そ の 他	9.7	5.1
わ か ら な い	4.3	5.7

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
1.1	0.2	0.4	1.6	0.8	0.8	1.0	1.2	0.3	1.5	-
5.2	2.5	7.6	7.0	4.1	4.7	8.0	6.5	6.1	3.6	1.7
2.3	4.0	8.4	2.0	3.1	4.3	4.0	3.2	4.6	3.3	2.9
89.7	91.3	83.5	87.2	90.8	88.6	90.7	88.2	87.9	90.1	92.9
1.7	2.0	-	2.3	1.2	1.6	1.3	0.9	1.2	1.5	2.5

いること、心配なことは何か（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
62.9	62.7	66.4	58.9	62.5	67.8	61.6	59.0	63.6	64.8	80.4
9.5	6.0	14.3	9.7	8.7	9.1	11.7	11.4	7.7	5.8	7.4
17.0	17.8	8.2	19.7	14.8	14.1	9.1	15.5	15.5	17.3	15.1
5.5	-	-	8.4	2.3	2.9	2.6	1.8	3.4	2.2	2.9
0.7	0.5	0.8	0.4	0.8	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4	1.6
11.3	9.6	7.8	15.2	9.9	9.4	11.4	11.4	8.6	8.6	7.8
3.7	5.1	4.1	3.1	4.6	4.0	3.2	3.2	5.7	3.6	2.9

地震以来20日たったいま、困っ



【30】地震後、買物が不便だったか

◇ 意外にスムーズ、商業・流通活動ほとんどが支障がなかった

買物で「あまり支障がなかった」と答えた人は78%、さらに「休店が若干あったが不便を感じなかった」が15%であわせると93%となり、今回の地震後の商業・流通面はそれほど混乱がなかったことを示している。

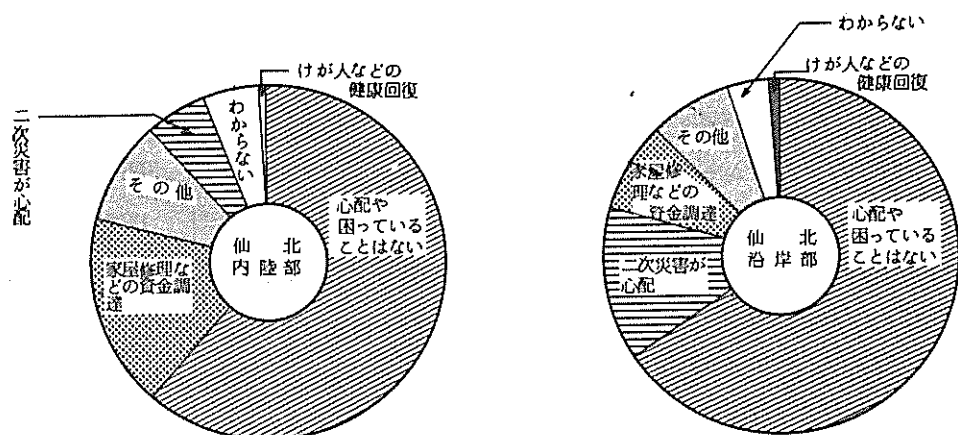
これは、大地震の割にパニックがおこらなかった要因の一つであったともいえる。

地域別では、仙台・周辺部の「支障がなかった」は70%と、他の地域のそれよりだいぶ低い値を示していたが、「これは休店が若干あった」、「多くの店が休み不便だった」ことなどによるものと思われる。

〔30〕地震後、商店の被害などで買物が

	全 県	仙 台 南 部 内 陸 部
あまり支障がなかった	77.7	87.2
休店が若干あったが不便を感じなかった	15.3	8.3
多くの店が休み不便だった	3.2	0.6
そ の 他	0.7	1.9
わ か ら な い	3.1	1.9

ていること、心配なことは何か



不便だったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙北 内陸部	仙北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
70.3	82.7	84.4	64.5	76.8	78.5	71.8	73.5	78.7	80.9	85.8
20.5	12.8	9.0	25.3	15.5	15.1	18.5	18.3	14.8	13.4	10.1
5.0	2.1	1.6	5.7	2.9	3.5	4.9	4.1	3.1	1.8	1.6
1.0	-	0.4	1.5	1.1	0.4	1.3	0.3	0.6	1.1	0.4
3.3	2.4	4.5	2.9	3.7	2.5	3.6	3.8	2.8	2.9	2.0

【31】生活用品の不足などで困ったか

◇ 生活用品でも「困らなかった」が79%

突然の地震にもかかわらず、生活用品については、「困らなかった」人が80%に達しているが、これは、各家庭のストックがあったことや、前出の買物で不便だったかの項のように商業・流通が比較的スムーズであった結果といえよう。「困った」例では、「パンなどの食料品」が最も多く(62%)、「青果物などの食料品」(16%)、「プロパンガス」(18%)などは低い数字に止まっている。

〔31〕生活用品の不足などで困ったか(重)

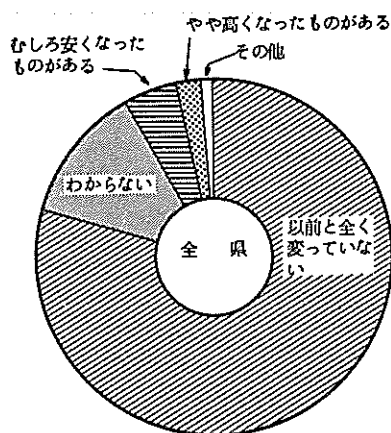
	全 県	仙 南 内 陸 部
困らなかった	79.0	85.9
困 っ た	13.0	8.8
青果物などの食料品	16.3	15.4
パンなどの食料品	61.7	46.2
プロパンガス	13.3	7.7
医 薬 品	1.0	-
そ の 他	7.7	30.7
わからない	8.0	5.8

【32】地震後、生活用品の価格はどうだったか

◇ 生活用品の便乗値上げはほとんどみられず

災害時の便乗値上げは過去にいくつか指摘されているが、こと今回の地震に限っては、これがほとんどなかった。

地震後の生活用品の価格は
どうだったか。



〔32〕地震後、食料品など生活用品の価

	全 県	仙 南 内 陸 部
以前と全く変わっていない	78.9	85.4
やや高くなったものがある	2.7	-
むしろ安くなったものがある	4.6	-
わからない	13.7	14.6
そ の 他	0.1	-

地震後、加工食品など、さらにごく局部的に「やや高くなったものがある」(8%)と指摘した例もあったが「むしろ安くなったものがある」(5%)という報告もあり、総じて「以前と全く変わっていない」(79%)。

地域別にみてもほぼ同様の傾向で、各地域とも「高く

複回答)

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
70.7	87.3	84.7	63.2	80.1	78.0	71.1	70.9	84.5	84.1	87.1
20.7	4.9	7.4	27.9	10.8	15.2	14.6	17.3	11.7	11.9	7.9
15.2	20.0	22.2	16.7	13.6	18.3	11.4	25.0	12.5	18.2	5.3
63.4	55.0	66.7	61.9	67.9	57.4	70.4	58.3	62.5	60.6	52.6
14.5	10.0	11.1	15.1	11.1	14.8	9.1	11.7	17.5	12.1	21.1
1.4	-	-	0.8	2.5	-	-	1.7	-	-	5.3
5.5	15.0	-	5.5	4.9	9.5	9.1	3.3	7.5	9.1	15.7
8.6	7.8	7.9	8.9	9.1	6.8	14.3	11.8	3.8	4.0	5.0

格はどうだったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
75.0	80.5	83.2	72.8	76.3	81.5	69.9	78.2	80.7	85.3	81.3
3.5	3.1	1.2	4.5	2.6	2.7	2.9	2.9	4.0	1.4	1.3
7.5	3.6	1.2	9.8	3.3	6.0	5.9	6.2	4.6	2.9	3.0
14.0	12.3	14.3	12.9	17.7	9.6	20.9	12.4	10.6	10.4	14.5
-	0.5	-	-	-	0.3	0.3	0.3	-	-	-

なったものがある」よりも「安くなったものがある」の方が高くなっており、各業界の放出などの対応、商業部門の努力は評価されてよいものと考えられる。

5 地震への備えについて

[33] これまで宮城県でも強い地震がくると思ったことがあるか

[34] 地震がきたときのことを家族で話し合っているか

[35] 地震に備えて心掛けていること

[36] 今回の地震の際、災害時に必要な物であったものは

【33】これまで宮城県でも強い地震がくると思ったことがあるか

◇ 過半の県民（55％）が驚天動地の思
い

今回程度の強い地震が宮城県にくる
と思っていたかとの問に対しては、「い
つかはくる」と思っていた人が44％で
最も多い。「宮城県にはこない」あ
るいは「全然考えていなかった」人を
合わせると55％と過半を示し、約半数

の県民が強い地震がくるとを予想もしていなかったことがわかった。

しかし、地域別に見ると、仙北地方の住民は「いつかはくる」と思っていたが、過半を占めて
いるのに対し、仙南内陸部、仙台・周辺部では逆に「こない」「考えていなかった」が多くなっ
ているのが対象的だった。

仙台・泉地区では68％もの人が予想していなかった。

男女別では男性で「いつかはくる」が高く、女性は、「こない」、「考えていなかった」と思
っていた人が男性よりかなり多かった。

[33] これまで宮城県でも震度5程度の

	全 県	仙 南 内 陸 部
いつかはくると思ってい た	43.6	41.1
宮城県にはこないと思っ ていた	31.6	34.9
全然考えていなかった	23.8	24.0
そ の 他	1.0	-

[37] 今回の体験で常に備えておくべきものは何か

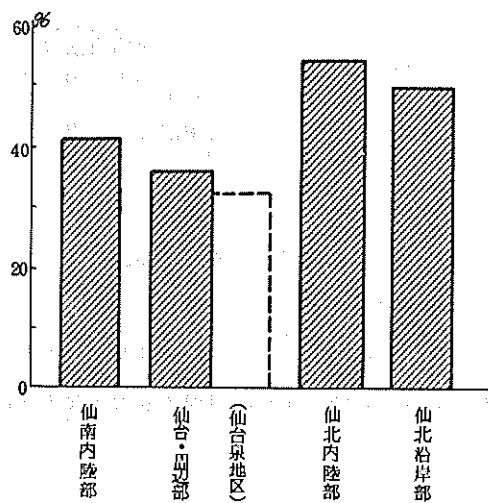
[38] 普段からの準備や心構えが役立ったか

[39] 職場の地震に備えての準備

地震がくると思ったことがあるか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以上
36.0	54.7	50.0	32.8	51.1	36.3	40.4	45.5	44.0	45.8	42.4
38.2	22.8	27.0	41.4	27.0	36.2	30.0	24.6	35.9	34.5	34.8
25.5	20.6	20.9	26.1	21.0	26.5	28.7	28.1	19.5	19.4	22.4
0.3	1.9	2.0	0.2	0.9	1.0	1.0	1.7	0.6	0.7	0.8

いつかはくると思っていたか



【34】地震がきたときのことを家族で話し合っているか

◇ 地震の話は家庭であまりされず、64

%がたまに話をする程度

家族の間で地震がきたときの話を、「いつもしている」家庭は11%にすぎない。「たまに話す」が64%で圧倒的に多く、「ほとんどない」「全くない」は、両者合わせると25%にも達し、家族の中で地震のことが話題になるのは意外に少ない。

地域別にみると、仙北地方では「いつもしている」「たまに話す」が全県平均よりやや高く、反対に、仙南内陸部、仙台・周辺部では「ほとんどない」「全くない」が割合に高くなっている。

都市的性格が強い地域程地震のことが家庭の話題からうすくなっている傾向がある。

年齢階層別では、一般には高年齢層になるに従って「いつも話している」「たまに話す」が高くなっており、若い年代（20～29歳）は「いつも話している」が半分程度、逆に「全くない」が、2倍近い比率になっている。

話題は、「火を消す」が91%「どこに避難」が53%の順。

家庭で地震が話題になった時には、「火を消す」「どこに避難」が大半で、そのほかには「貴重品の持出し」（26%）、「宮城県に地震がくるか」（23%）などとなっている。この傾向は、地域別にも各地域が共通しており男女別、年齢階層別にも大きな差異はない。

〔34〕－1 地震がきたときのことを家族

	全 県	仙 南 内 陸 部
いつも話し合っている	11.0	7.7
たまに話すことがある	63.6	62.8
ほとんどない	18.5	19.2
全 く ない	6.6	10.3
そ の 他	0.3	-

〔34〕－2 そのときの話はどんな内容か

	全 県	仙 南 内 陸 部
宮城県に地震がくるか こないかなど	23.4	20.9
どこに避難するか	53.0	52.7
非常用食料品の準備	17.5	13.6
火を消すとかの注意	91.3	91.8
家族がばらばらになった ときの連絡方法など	14.5	14.5
とっさのときの家族の役 割など	11.1	5.5
貴重品など持出しするも の	26.3	29.1
そ の 他	2.7	2.7

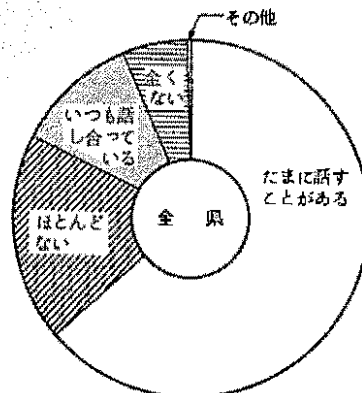
で話し合っているか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内 陸 部	仙 北 沿 岸 部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以 上
10.4	12.8	12.0	10.2	10.5	11.5	4.6	7.6	10.5	17.8	17.4
60.5	68.4	64.5	56.4	64.9	62.9	56.2	72.1	67.2	61.5	57.9
21.2	14.5	17.4	24.9	18.8	18.2	27.1	15.1	16.7	16.7	17.4
7.5	4.0	5.8	8.6	6.2	7.0	11.4	5.2	5.4	4.0	7.0
0.9	0.2	0.4	0.4	0.1	0.4	0.7	-	0.9	-	0.4

(重複回答)

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内 陸 部	仙 北 沿 岸 部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60歳 以 上
26.5	20.5	22.2	24.9	25.2	21.7	24.7	18.6	24.7	25.7	24.7
54.8	50.9	51.9	58.1	50.5	55.4	54.8	62.0	62.0	47.2	45.6
20.3	11.7	23.2	23.9	16.0	19.0	15.5	16.1	17.8	20.2	18.1
90.4	89.2	97.3	96.7	92.6	89.9	93.5	88.7	87.6	96.8	91.8
18.3	9.1	14.6	20.9	13.2	15.9	16.7	17.5	12.7	11.0	14.8
10.2	12.0	15.1	10.8	13.2	9.0	9.7	11.3	10.2	12.8	11.5
26.7	21.6	32.4	30.9	25.5	27.2	19.9	17.5	25.5	31.2	41.8
3.2	2.6	1.6	4.0	2.5	3.0	3.2	1.1	1.1	3.7	6.0

地震がきたときのことを
家族で話し合っているか



【35】地震に備えて心掛けていること

◇ 虚をつかれた今回の地震、ふだんから心掛けていたのは16%だけ

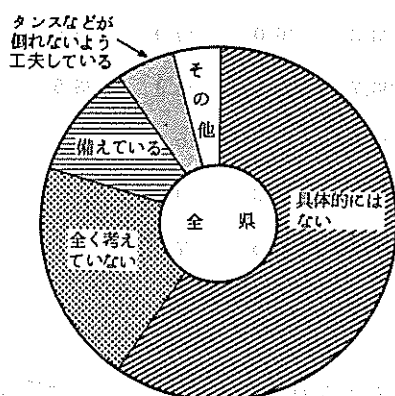
地震に備えて常に心掛けている家は16%だけであった。

その内訳は「非常用生活用品を備えている」が12%「タンスなどが倒れないように工夫している」が4%となっている。

また「考えているだけ」は62%、「全く考えていない」が19%とほとんどの家では地震に備えた具体の心掛けをしていなかった。

地域別では、仙台・周辺部特に、仙台・泉地区で「非常用生活用品を備えていた」のはそれぞれ15%、16%で、全県を2～3%上回っていた。

地震に備えて心掛けていることがあるか



〔35〕家で地震に備えて心掛けていること

	全 県	仙 南 内 陸 部
非常用生活用品を備えている	12.4	7.2
タンスなどが倒れないようにひもでつなぐなどの心掛け	3.6	0.7
考えてはいるが具体的にはない	62.1	66.7
全く考えていない	18.9	22.9
そ の 他	3.0	2.6

とがあるか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳	60 歳 以 上
14.9	9.1	14.3	15.9	11.8	13.1	10.8	12.7	14.0	12.3	11.9
3.3	7.2	0.4	3.3	3.7	3.5	3.3	4.0	4.9	2.5	2.9
58.7	64.0	65.6	60.2	59.7	64.4	63.0	63.7	60.9	63.0	59.3
21.0	15.5	16.4	19.0	21.2	16.7	20.3	16.4	17.7	18.5	23.0
2.1	4.3	3.3	1.5	3.7	2.2	2.6	3.2	2.6	3.6	2.9

【36】 今回の地震の際、災害時に必要な物であったものは

◇ 災害時に必要なものとしては、懐中電灯、トランジスタラジオ、ろうそく、消火器など

今回の地震の際、買い置きなどを含めて、災害時に必要な物があったかどうかをみると、「全くなかった」が5%で、ほとんどの家庭では災害時に重宝される何かはあったことになる。

この傾向は、どの階層でも共通している。

しかし、個々にみると、懐中電灯も86%の備えつけ率でこれに続いて70%台のトランジスタラジオ、ろうそく、50%台の消火器など、40%台の救急薬品となっており、災害に備えている家庭は意外と少ないようである。

〔36〕 今回の地震の際、災害時

	全 県	仙 南 内 陸 部
なかった	5.4	3.2
あった	94.6	96.8
消火器	59.3	68.8
防火用水	8.0	5.7
非常用燃料	14.9	8.9
ロープ・はしごなど	19.8	24.2
トランジスタラジオ	73.2	69.4
懐中電灯	86.1	90.4
ろうそく	71.2	67.5
救急薬品	47.6	51.0
非常用食料品	9.8	4.5
非常用持出袋	7.8	9.6
防水ビニールシート	7.1	9.6
その他	1.0	0.6

に必要な物資であったものは何か（重複回答）

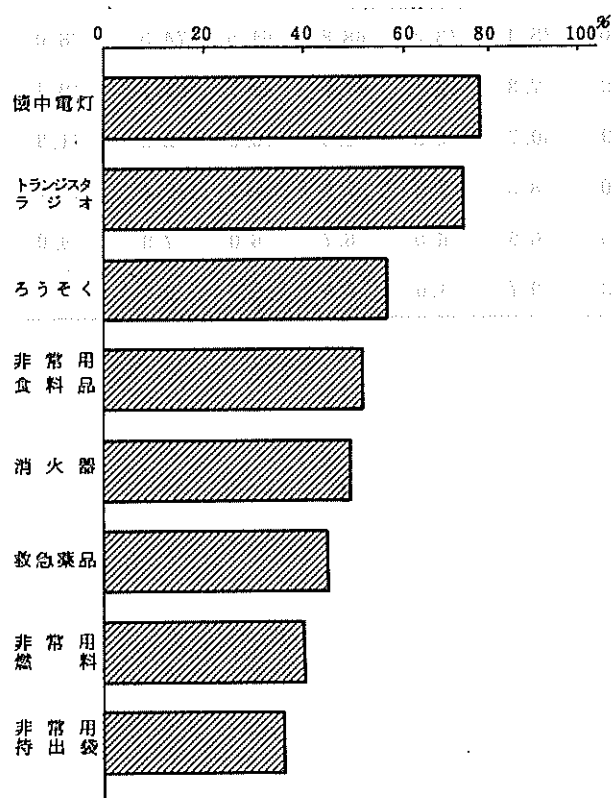
地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙北 内陸部	仙北 沿岸部	(特掲)仙 台・泉地区	男	女	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
5.2	6.8	5.7	5.1	6.6	4.2	8.1	5.0	4.3	3.6	6.1
94.8	93.7	94.3	94.9	93.4	95.8	91.9	95.0	95.7	96.4	93.9
53.8	64.6	60.2	49.0	61.7	57.0	54.4	54.8	61.6	65.8	61.8
8.5	8.2	7.4	7.3	8.5	7.4	6.5	4.7	7.8	10.8	12.2
18.7	12.5	11.9	22.7	13.9	15.9	14.3	14.6	15.2	17.3	13.1
16.0	24.3	19.3	11.5	21.9	17.5	15.0	13.1	18.1	26.3	29.4
76.9	66.3	76.6	78.1	71.0	77.4	74.3	72.3	75.6	72.3	70.6
85.2	85.8	86.5	85.7	84.2	88.0	83.1	85.7	86.0	90.6	85.7
74.4	67.7	70.5	74.4	67.0	75.4	73.3	68.8	64.5	74.5	78.0
47.0	46.7	48.8	50.3	47.9	47.3	42.7	47.5	48.1	51.1	49.4
12.6	8.7	7.0	15.5	8.9	10.7	6.8	9.0	10.0	12.6	11.0
7.1	5.5	12.3	8.4	7.0	8.5	2.0	7.3	7.7	10.4	12.7
5.7	9.6	5.3	3.8	7.5	6.6	6.5	6.7	6.0	7.9	9.0
1.3	1.2	—	0.4	1.3	0.7	1.6	0.6	0.9	0.7	1.2

【37】 今回の体験で常に備えておくべきものは何か

◇ 災害時に備えておきたいものは、非常用の食料品、燃料、持出袋。新しい発見として防水ビニールシートも

今回の体験から非常用物資として備えておくべきものをあげてもらったところ、98%が具体的に品名をあげていた。とくに、地域別にみると、仙台・周辺部、仙北沿岸部が99%、仙台・泉地区では100%となっており非常時用の必要性を痛切に感じたことがわかった。

災害に備えぜひとも準備しておくべきもの



〔37〕 今回の地震の体験で

	全 県	仙 南 内 陸 部
わからない	1.8	5.1
ぜひとも備えておくべきだ	98.2	94.9
消 火 器	51.5	50.0
防火用水	16.3	12.5
非常用燃料	41.8	32.2
ロープ・はしこなど	16.6	15.8
トランジスタラジオ	75.1	65.8
懐中電灯	78.4	69.7
ろうそく	59.0	44.1
救急薬品	46.3	41.5
非常用食料品	53.6	44.1
非常用持出袋	37.7	34.2
防水ビニールシート	16.2	13.2
そ の 他	2.7	2.0

何を備えておくべきかについては前表でも割合に高い比率を示していた懐中電灯（78%）が最も高くトランジスタラジオ（75%）、ろうそく（59%）、消火器（52%）が高く、このほか、「非常用の食料品」（54%）、「燃料」、「持出袋」、「防火用水」、「防水ビニールシート」などとなって、前

ぜひとも備えておくべきものは何か（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	（特掲） 仙台・泉地区	男	女	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
1.4	1.9	0.8	0.4	1.6	2.1	1.3	1.2	1.4	2.2	3.7
98.6	98.1	99.2	99.6	98.4	97.9	98.7	98.8	98.6	97.8	96.3
47.2	57.8	53.9	48.8	56.9	46.3	43.3	43.9	50.0	61.6	62.6
18.7	14.7	14.8	18.4	15.2	17.4	8.9	10.7	15.3	23.1	27.0
51.4	34.2	33.0	61.4	36.9	46.5	46.1	42.3	38.3	41.8	40.9
15.7	17.5	18.3	17.4	20.9	12.5	9.6	10.7	13.5	23.5	30.0
77.7	73.3	77.0	79.5	73.3	76.9	75.9	73.0	75.2	75.8	76.5
79.1	79.4	80.4	79.5	76.2	80.5	79.4	75.8	73.7	82.8	82.6
63.2	55.5	62.2	67.4	58.3	59.6	61.4	50.6	53.6	65.3	68.3
45.7	49.1	46.1	49.3	45.1	47.4	40.4	43.9	45.8	58.4	49.1
60.8	43.2	56.5	70.2	47.4	59.6	49.3	58.9	52.7	54.1	52.2
38.9	33.9	43.0	42.1	35.5	39.9	25.9	37.1	38.9	44.0	43.9
17.3	17.0	13.5	19.5	16.2	16.2	11.7	12.9	12.9	20.9	25.7
3.2	2.3	2.6	3.7	3.1	2.3	3.2	3.1	3.0	1.9	2.2

表の比率より高く、今回の体験でその必要性を感じたものといえよう。年齢階層別には20～29歳ではトランジスタラジオ、懐中電灯、30～39歳では非常用の「燃料」、「食料品」など、生活的なものがやや高いのに対し、50～59歳、60歳以上では「消火器」、「防火用水」、「防水ビニールシート」など火災の発生や、二次災害防止的なものの備えつけの必要性を訴えている。

特に、「防水ビニールシート」は、瓦屋根が壊れた時の雨漏り防止、がけ崩れ防止などに用途が広く、非常用品としてはこれまで気づかなかった新しい発見であった。

【38】 普段からの準備や心構えが役立ったか

- ◇ とっさの時の訓練はやはり大事、「役立った」、
「準備していなかった所以需要を感じた」、が
それぞれ38%前後

災害に対しての普段からの準備や心構えが役立ったかとの問に対しては、「準備していなかった所以需要を感じた」が38%で最も多く、このほかでは「家族と話していること」(25%)や「非常用生活用品の準備」(12%)が、役立ったと回答したものの率が割合に高かった。

しかし、せっかく準備していても、とっさの時にあわててしまって役に立たなかったとするものが11%もあった。災害時に対する準備も的確な準備といざという時に普段からの準備が十分に発揮できる訓練などの必要なことがわかる。

〔38〕 普段からの準備や心構えが

	全 県	仙 南 内 陸 部
家族で地震のことを話していること	25.3	29.6
非常用生活用品の準備	12.1	4.6
準備していたがあまり役に立たなかった	8.4	11.8
あわてていて役に立たなかった	10.8	13.8
準備していなかったでその必要を感じた	38.0	34.9
そ の 他	5.5	5.3

【39】 職場の地震に備えての準備

- ◇ 職場で地震に備えての準備は「あまりしていない」45%、「全くない」18%で3分の2近くが無防備状態

職場での地震に備えての話し合いや準備はあまりなされていない。「話し合いをしている」は23%、「準備している」が6%、「訓練している」が9%で全体で38%にすぎず、「あまりしていない」45%、「全くない」18%と準備していない方が63%とほぼ3分の2を占めている。

地域別にみると、仙台・周辺部は「していない」71%と圧倒的に高く、これに対し仙南内陸部、仙北内陸部、仙北沿岸部は、準備しているがやや高い傾向にある。とくに、仙北内陸部では、準備を「している」が55%で過半となり、同じく28%程度の仙台・泉地区と対照的である。

〔39〕 あなたの職場で地震に

	全 県	仙 南 内 陸 部
話し合いをしている	22.9	24.5
必要なものを準備している	6.4	7.4
災害時の訓練をしている	8.6	8.5
準備はあまりしていない	44.6	38.0
全くない	17.5	26.6

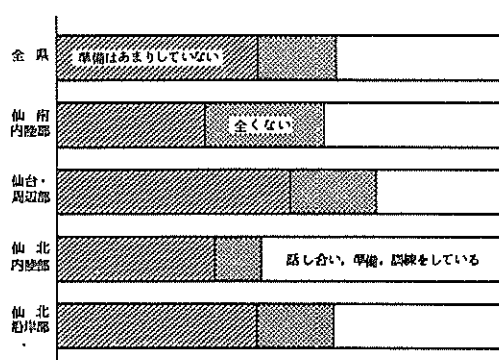
今回の地震で役立ったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲) 仙台・泉地区	男	女	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上
21.1	28.7	29.1	17.3	28.2	22.4	18.2	28.4	24.9	27.0	28.5
16.1	7.7	12.7	20.2	11.7	12.5	14.9	9.3	11.6	12.9	12.4
8.7	8.4	5.3	8.0	8.4	8.4	6.9	9.6	9.5	8.3	7.0
8.0	14.0	11.5	6.9	9.5	12.0	9.2	13.9	11.6	9.0	9.1
41.1	34.2	37.3	43.1	35.8	40.1	46.2	34.2	35.6	36.7	38.0
5.1	7.0	4.1	4.4	6.4	4.6	4.6	4.6	6.9	6.1	5.0

備えて話し合いや準備をしていたか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲) 仙台・泉地区	男	女	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上
15.7	36.0	24.8	16.1	26.2	17.2	14.5	21.2	26.3	32.4	27.1
4.5	9.9	6.2	4.4	6.7	5.8	6.1	5.7	6.6	9.4	2.9
8.8	8.9	7.8	7.4	8.0	9.7	8.3	8.5	6.6	14.4	4.3
52.0	35.0	44.2	55.0	43.1	47.2	49.1	47.2	43.9	32.4	48.6
19.0	10.3	17.1	17.1	16.0	20.1	21.9	17.5	16.7	11.5	17.1

職場で地震に備えて話し合いなどを行っているか



6 復旧対策や広報活動などについて

〔40〕 地震直後、大きな混乱がなかった理由

〔41〕 地震直後の市町村・県の広報活動

〔42〕 地震後の広報活動はどんな方法がよいか

〔43〕 市町村・県の応急対策など

〔44〕 今回の地震で町内会や隣

〔45〕 今回の体験を生かすには

【40】 地震直後、大きな混乱がなかった理由

◇ 今回の地震、条件にめぐまれて大きな混乱を起さず、「正しい情報も一役」

今回の地震は、都市型地震といわれた割には、パニックが起きなかった。

この原因としては、「地震が発生した時間にめぐまれた」(78%)、「暗くなるまでに最小限の対応できた」(68%)、「火災や津波などがなかった」(66%)をあげた人は3分の2を占めている。また、「正しい情報が十分に流れた」(44%)も注目される。

こうしてみると、地震発生の「時間」地震に伴う「火災」の発生がなかったことに加えて、正しい「情報」の有無がパニックを防いだようだ。

地域別では仙北沿岸部で「津波」がなかったことが、パニックが発生しなかった主因と考えている人が80%と非常に多くなっている。

〔40〕 今回の地震直後大きな混

	全 県	仙 南 内 陸 部
正しい情報が十分に流れた	43.9	45.2
地震が発生した時間にめぐまれた	78.1	79.6
火災や津波などがなかった	66.2	62.4
多くの人が冷静に行動した	23.7	21.7
暗くなるまでに最小限の対応ができた	67.6	64.3
日頃の心構えがあった	5.2	5.7
食料品などの入手が容易だった	19.3	15.9
電話がどうやら通じた	19.3	25.5
そ の 他	1.0	—
わからない	2.0	1.9

についてどう思うか
組が役立ったか
何が大切だと思うか

乱がなかった理由は何か（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	（特掲） 仙台・泉地区	男	女	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
54.0	38.1	44.3	48.3	44.8	43.0	42.7	39.4	45.0	69.4	21.2
78.5	80.2	72.1	79.7	76.2	79.9	71.3	79.3	82.5	21.2	61.2
68.1	56.4	79.9	70.0	65.2	67.3	66.4	67.1	66.5	68.3	62.0
29.6	18.6	16.8	34.9	25.3	22.2	38.4	20.1	23.8	17.3	17.6
70.4	66.5	63.5	44.4	65.6	69.6	19.5	47.5	70.9	48.9	80.4
3.7	7.2	5.7	2.6	5.3	5.1	3.3	2.6	6.3	7.2	7.3
23.5	15.4	15.6	26.9	17.2	21.3	16.0	18.1	18.1	22.7	22.9
23.1	12.8	15.6	23.8	19.9	18.8	14.7	14.3	15.2	29.5	26.5
1.7	0.5	0.4	2.0	0.8	1.2	2.3	0.3	0.6	0.4	1.6
1.5	3.3	1.2	1.3	2.0	2.1	2.0	1.2	2.6	1.8	2.9

【41】 地震直後の市町村・県の広報活動

◇ 市町村などの広報活動はおおむね良好

広報活動については「良くやった」(19%)「まあまあだ」(29%)、「あの事態である程度は止むを得なかった」(22%)など肯定的な意見は全体の70%に達している。しかし、「もっとやるべきだ」という回答が17%もあったことも見逃せず、災害時における広報のあり方は今後十分に検討すべき課題となった。

とくに地域別には、そう大きな差異はなく都市化が進んでいる仙台・泉地区でもこのような肯定的な意見が65%に達している。

しかし、被害の大きい仙台・泉地区の「もっとやるべきだ」が21%と他の地域にくらべかなり高くなっているのが注目された。

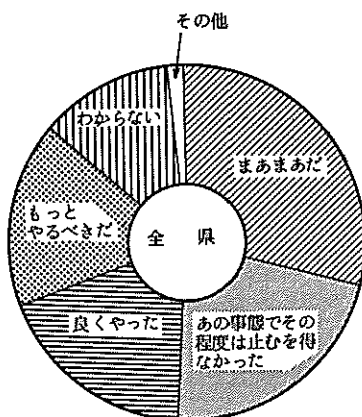
〔41〕 地震直後の市町村・県の

	全 県	仙 南 内 陸 部
良くやった	18.8	20.4
まあまあだ	29.0	24.8
あの事態である程度は止むを得なかった	21.9	19.7
もっとやるべきだ	17.0	15.9
そ の 他	1.4	1.3
わからない	11.7	17.8

広報活動についてどう思うか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲) 仙台・泉地区	男	女	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
18.3	15.3	25.4	17.5	18.4	19.2	16.6	18.8	20.8	16.7	21.3
26.5	30.8	36.9	24.4	27.8	30.3	31.5	28.5	27.5	28.3	29.9
22.7	24.1	17.2	23.3	22.7	21.1	19.8	20.5	22.8	26.8	19.7
18.7	16.0	14.8	20.8	20.0	14.1	18.8	18.8	16.5	15.2	15.2
1.7	1.2	1.2	1.6	2.0	0.9	2.3	2.3	—	1.8	0.8
12.1	13.1	4.5	12.4	9.1	14.4	11.0	11.1	12.4	11.2	13.1

地震直後の市町村・県の広報活動をどう思うか



【42】 地震後の広報活動は、どんな方法がよいか

◇ 災害時の広報活動は「ラジオ」、「テレビ」、「広報車」、「新聞」で

地震災害時の広報活動が効果的なものは、「ラジオ」が58%で最も多く、40%台の「テレビ」、30%台の「広報車」、「新聞」(24%)がこれについている。

マスコミの一角に「広報車」がくい込んでいるのは前出の広報活動への評価にもつながり、災害時に一層きめ細かな、生活情報の提供が、自治体の広報活動の役割であるとの示唆でもあるとみられ、その活動方法の具体的対策が今後への課題である。

地域別には、仙南内陸部では、「ラジオ」とともに「テレビ」(53%)、仙台・周辺部、仙台・泉地区など都市部では「新聞」、「ヘリコプター」、仙北内陸部、仙北沿岸部の農村部では「広報車」が割合に高くなり、それぞれの地域の条件によって異った特色がでている。

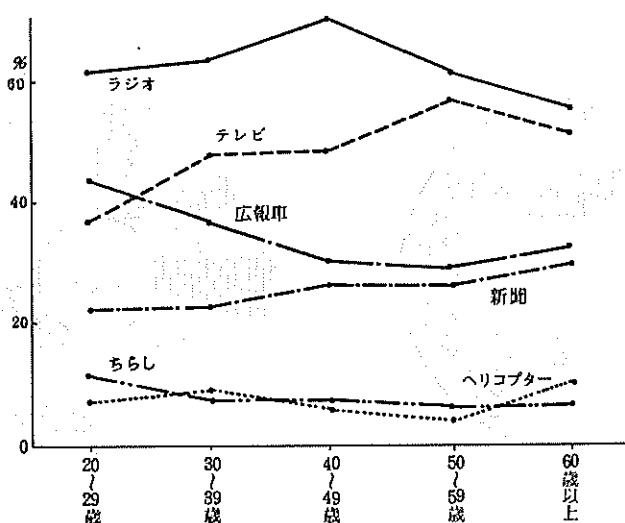
〔42〕 地震後(1～2日ぐ

	全 県	仙 南 内陸部
ラ ジ オ	58.3	55.4
テ レ ビ	45.2	52.9
新 聞	24.1	20.4
ち ら し	7.8	10.2
ヘリコプター	7.6	5.1
町内会などの口こ み連絡	4.7	1.9
広 報 車	32.5	28.0
そ の 他	0.7	1.3
わからない	4.2	7.0

らい)市町村・県の広報活動は何がよいと思うか(重複回答)

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲) 仙台・泉地区	男	女	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上
65.4	48.0	57.0	68.4	58.9	57.6	65.1	58.3	61.6	59.0	56.3
42.2	44.8	49.6	41.9	46.8	43.7	34.5	43.4	44.1	54.7	51.8
27.2	23.1	19.3	29.1	23.7	24.5	20.5	21.3	24.9	25.5	29.8
7.6	9.4	3.7	7.1	7.8	7.7	12.1	7.0	6.9	6.5	6.1
10.5	5.8	3.7	11.9	8.1	7.0	8.5	7.9	6.9	4.7	10.2
6.1	3.6	4.1	6.8	3.8	5.5	3.9	5.8	3.7	4.3	5.7
28.6	36.9	38.9	29.4	30.5	34.4	41.4	32.9	27.8	27.7	32.7
0.7	0.7	0.4	0.7	1.2	0.3	0.3	0.3	0.9	0.7	1.6
3.3	6.0	2.0	2.2	3.7	4.7	2.0	3.2	4.6	6.5	5.3

地震後の広報活動は何がよいか



【43】市町村・県の応急対策などについてどう思うか

◇ 市町村などの応急対策はおおむね良好，仙台・周辺部，とくに仙台・泉地区で評価

応急対策，二次災害防止対策については，「良くやった」，「まあまあだ」，「あの事態であの程度は止むを得なかった」などの肯定的な意見は69%に達している。

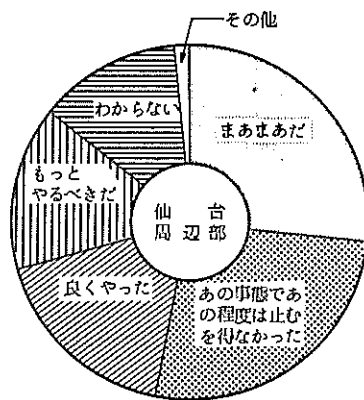
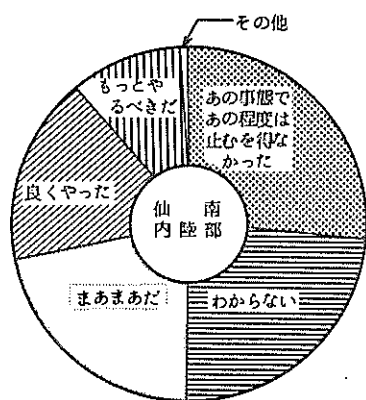
しかし，「もっとやるべきだ」という意見も15%あり，これは青壮年層を中心にやや高くなっている。

一方，被害の大きかった，仙台・泉地区においても肯定的な意見は73%に達しているなど，自治体の努力をかなり評価している面が多かった。

〔43〕市町村・県の応急対策・

	全 県	仙 南
		内 陸 部
良くやった	16.4	16.9
まあまあだ	29.1	21.4
あの事態であの程度は止むを得なかった	23.0	26.6
もっとやるべきだ	15.0	10.4
そ の 他	1.0	0.7
わからない	15.5	24.0

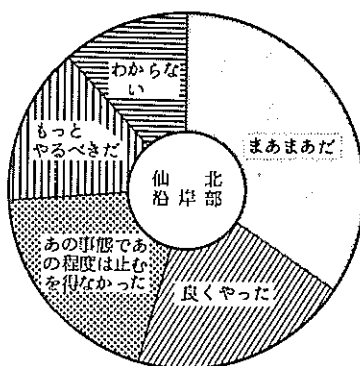
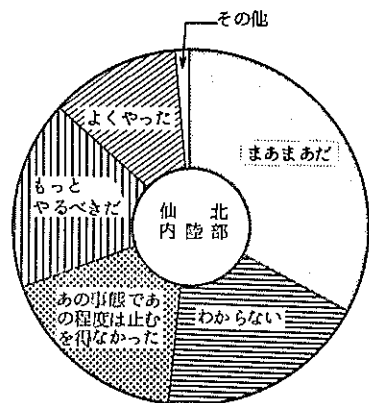
市町村・県の応急対策・二次災



二次災害防止対策についてどう思うか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲) 仙台・泉地区	男	女	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上
17.7	12.0	19.7	19.3	17.8	15.4	12.5	17.0	19.8	16.7	15.2
26.7	32.7	34.4	25.5	28.1	30.0	28.8	30.3	27.3	27.9	31.6
26.4	17.8	19.7	28.6	23.4	22.6	24.9	23.9	22.4	25.4	17.2
15.1	17.1	14.3	14.0	17.9	12.3	16.3	16.4	15.5	13.0	13.1
1.2	1.2	—	1.7	1.8	0.7	1.5	0.9	0.9	0.7	0.8
12.9	19.2	11.9	10.9	12.0	19.0	16.0	11.5	14.1	16.3	22.1

害防止対策についてどう思うか



【44】 今回の地震で町内会や隣組が役立ったか

◇ 団地でも隣同志の助け合い、地震にあって「隣近所のつき合いが力強く感じた」

町内会や隣近所では地震後何らかの形で助け合いをしており、助け合いをやったかがあったと回答したのが64%にも達している。災害時の地域連帯の必要を強く示している。

この傾向は、各地域ともみられるがとくに、コミュニティの歴史が浅い都市部（仙台・泉地区）の団地でも同じような傾向を示し、隣近所とのつき合いを再評価している。

とくに、長期間にわたるガスの供給の停止で、入浴や炊事などに不便を感じていた人に対する助け合いが15%もあったことが特に注目された。

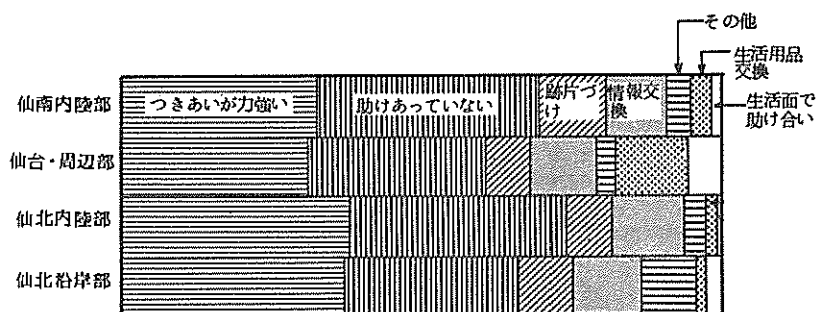
〔44〕 今回の地震で町内会や

	全 県	仙 南 内 陸 部
隣近所のつきあいが力強く感じた	34.0	32.4
跡片づけや応急対策を手伝った	8.1	10.8
生活などの情報を交換しあった	11.2	10.1
生活用品を交換しあった	3.7	3.6
入浴の便の提供・共同炊事など生活面で助けあった	7.1	2.1
とくに助けあっていない	31.8	36.7
そ の 他	4.1	4.3

隣近所が役立ったか

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	(特掲) 仙台・泉地区	男	女	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60歳以上
31.3	38.3	36.7	31.1	33.1	34.9	27.0	32.0	38.7	38.8	34.5
7.5	7.5	8.7	6.8	8.9	7.3	8.6	9.4	6.3	7.4	8.6
10.9	12.0	11.4	10.9	10.2	12.0	13.4	12.4	10.4	10.5	8.2
5.9	0.8	1.7	7.5	2.8	4.6	4.8	5.4	3.5	3.1	0.9
12.2	2.0	3.1	14.6	6.6	7.7	10.3	5.4	5.3	5.9	9.6
29.5	36.0	29.3	27.0	32.0	31.6	31.5	31.4	32.4	29.7	34.6
2.7	3.4	9.1	2.1	6.4	1.9	4.4	4.0	3.4	5.1	3.6

町内会や隣近所が役立ったか



【45】 今回の体験を生かすには何が大切だと思うか

◇ 今回の体験を生かして「各人が日頃から大地震に備える」が3分の2近く

〔45〕 今回の地震の体験を生かすに

地震の体験を生かすためには「各人が日頃から大地震に備えておく」とする意見が一番多く、68%に達した。しかし、一方では「地震の科学的解明」にも大きな期待（25%）がかけられている。このほか青年層には、「地震に強いまちづくりを考えるべきだ」という意見が多い。これに対し、中高年層では自治体への要望といった具体的な意見が多くなっている。

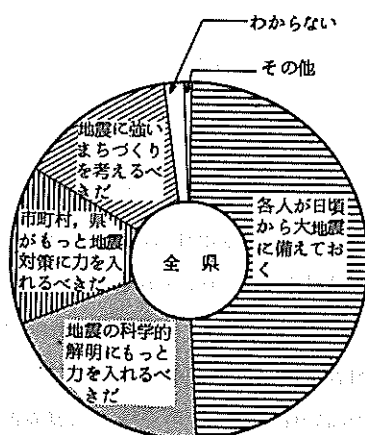
	全 県	仙 南 内 陸 部
各人が日頃から大地震に備えておく	62.7	60.5
市町村・県がもっと地震対策に力を入れるべきだ	18.5	17.2
地震に強いまちづくりを考えるべきだ	18.1	15.9
地震の科学的解明にもっと力を入れるべきだ	25.3	22.3
そ の 他	0.2	0.6
わからない	3.5	1.3

地域別には、「地震の科学的解明」が被害の大きかった仙台・周辺部、仙北内陸部に高く、仙南内陸部、仙北沿岸部では「各人の日頃からの備え」が高くなっている。

は何が大切だと思うか（重複回答）

地 域 別				男 女 別		年 齢 階 層 別				
仙台・ 周辺部	仙 北 内陸部	仙 北 沿岸部	（特掲） 仙台・泉地区	男	女	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
61.6	60.0	71.7	60.7	59.2	66.1	53.7	60.9	60.5	67.6	88.1
20.3	17.1	16.8	21.0	19.6	17.5	17.6	15.7	16.6	22.7	19.1
22.2	14.0	14.3	25.8	17.0	19.2	18.9	20.4	16.0	17.3	15.5
26.1	26.0	28.8	27.4	29.0	21.6	25.4	25.1	24.6	26.6	21.9
0.1	—	0.4	0.2	0.3	0.1	—	0.3	—	—	0.7
3.1	4.6	4.5	2.0	3.0	4.0	3.3	4.1	2.6	4.0	3.6

今回の地震の体験を生かすには何が大切だと思うか。



7 今回の地震を体験しての感想・意見など

アンケート調査に当たって、各客体に今回の地震を体験しての意見等を求めたところ、1,165件の感想・意見が寄せられた。県民にとって今回の体験が如何に衝撃が大きく、そして、県民はこの体験を貴重な教訓として今後に残し、地域づくりに生かそうとしているのがアンケート調査の結果でわかった。

その内容は、まず、今回の地震に対する一般的感想で、①地震がもし、夜間あるいは冬季だったら……、あらゆる点でめぐまれていたと災害をあらためて考え直そう、②本県は地盤もよく大地震はまずこないという安易な考えが間違いだった、③火もほとんど消され、多くの県民の冷静な行動、その後の隣同士の協力、商店等での良心的行動はわれわれの県民性であり宮城県への誇りに思う、④反面、とっさの時にはオロオロするばかりで常日頃からの訓練や備えの必要を感じた、⑤ガス復旧工事など他県からの応援、さまざまな救援など感謝の気持ちで一杯だ、⑥今回の地震で宮城県沖が地震の巣だということがクローズアップされ、心配が大きくなった、⑦都市生活とか、文化生活などというものの災害に対するもろさを痛感した……等だが、総体的には、今回の地震体験を貴重な教訓としてうけとめ、県民みんなで今後の生活、地域づくりに生かし、子供たち子孫にも言い伝えようという意見が多い。

次に、意見は、当面の災害復旧に関したものの、防災に関した行政への期待、地震に強いまちづくりに関したものの、災害に対する住民各自の取り組み方についての意見、地震を体験しての生活の知恵的なもの、地震の科学的解明と予知技術の確立に関したものなどである。

まず、当面の災害復旧に関した意見では、被害を受けた道路、橋梁、用水路、河川堤などを始め、水道・ガスなど住民生活の安定にかかわる諸対策を急ぎ、災害の完全な復旧に全力をあげてほしいという意見が最も多く、さらに二次災害の防止対策、個人被害の復旧事業に低利資金の融資、被害を受けた家屋・家具の修理に業者の手がなかなか回らない状態が続いているので、市町村等において調整する措置を考えてほしいなどがある。

次に防災に関した行政への期待では、まず、災害発生時の広報について被害状況・交通情報のほか例えば給水日程など生活情報をもっと具体的にしてほしいとするものが最も多い。

第三の地震に強いまちづくりには最も多くの意見が寄せられ、全県に亘る地盤・地質調査を実施し、その結果に基づいて土地利用計画の策定、とくに宅地造成事業の規則強化をする必要があるとするもの、屋根の構造など耐震性からの建築基準の見直し、タイル・ブロック塀などの基準設定と既存団地、とくに危険度の高い住宅地等の再点検と指導強化を望む意見が多い。さらに、避難場所の増加、防災訓練の強化など災害時対策を徹底し、区長や町内会など自治組織を通じた防災体制等の展開を望む声も強い。

また、まちづくりに当たって、これら行政面での規制や指導強化と合わせ生垣や金網のフェンスの普及、耐震性の強い水道・ガス等の都市施設や橋・鉄道の交通施設の整備と災害時のための無線の通信施設の建設を提言する意見がある。

次に今回の地震を体験しての生活の知恵的な意見も多く、この中では、スチール製の本箱や奥行き狭い家具が一緒に倒れたことを指摘し、同時に家具が倒れた際の危険性から、家具の上に重い物をあげたり、人が常にいる室には高い家具を置かないようにする心掛けを呼びかけている。このほか、家具を壁から若干離しておくことと倒れ難い、観音開きの家具は地震の際、中の物が全部外に出て危険、家具をひもか何かで柱などにくくっておくなどの工夫が安全につながるという意見も多い。

また、地震の科学的解明を急ぎ、予知観測体制の充実をいう意見も多く、今回の地震の余震や、今後の地震に対する不安解消を図ってほしいとするものがある。このほか、非常用の食糧や生活用品を県内数カ所にストックする対策や地震保険の見直しと相互共済制度の新設を提言する意見もあった。

このように、今回の地震の体験を今後に生かそうという意見が圧倒的で、その中でも、今回の地震で隣近所の呼びかけや、その後の助け合いが非常に力強く感じた。そして災害は結局はいつくるかわからず、常日頃の各人の心掛けと準備が災害に勝つか負けるかを決めることになるので、行政も、個人も力を合せて災害と取り組む必要があるというものが多かったことは注目に値する。

参 考 資 料

- ① アンケート調査様式
- ② 「1978年宮城県沖地震」のあらまし
- ③ 仙台市消防局のアンケート調査結果
- ④ 泉市消防局のアンケート調査結果
- ⑤ 石巻地区広域行政事務組合のアンケート調査結果
- ⑥ 迫町消防署のアンケート調査結果

1 アンケート調査様式

「宮城県沖地震」についてのアンケート調査票

宮 城 県 広 報 課

記入上の注意

- ① 調査票の質問事項をよくお読みのうえ、ありのままを正確にお答えください。
- ② それぞれの質問には該当の番号に○をつけてください。
- ③ 記入もれのないようにしてください。
- ④ 記入に際して他の人に相談されても構いませんが、地震のときあなたのまわりにいた人に限ってください。
- ⑤ ご記入になったこの調査票を、あなたにご迷惑をおかけするようなことには絶対に使用しませんので、あなたの考えを率直にお聞かせください。
- ⑥ ご記入のあとは、同封の返信用封筒にアンケート回答を入れ、投函してください（切手をはる必要はありません）。
- ⑦ おいそがしいところ申し訳ありませんが、7月6日頃までに投函されるようお願いいたします。

まず、はじめに
あなたの氏名、
住所等をお聞か
せください。

氏 名	性 別	年 令・職 業	住 所	電 話
	男 女	歳 (職業)	市町村 番地	()

1 地震にどこであい、どう感じましたか

〔1〕 あなたは、今回の地震がおきたとき県内にいましたか。

- 1 県外にいた (1-1) 建物の中 (1-2) 屋外(乗り物も含む)
- 2 県内にいた (2-1) 建物の中 (2-2) 屋外(乗り物も含む)

〔2-1〕 (県内にいた方に)あなたはそのとき、どこにいましたか。

- 1 自宅(庭も含む) 2 自宅以外の建物の中 (2-1) 会社・事務所
(2-2) 商店やデパート (2-3) その他
- 3 外にいた (3-1) 歩いていた (3-2) スポーツをしていた
(3-3) 遊んでいた (3-4) 自動車の中にいた (3-5) その他()

〔2-2〕 (自宅にいた方に)あなたは家のどこで何をしていましたか。

- 1 その場所は (1-1) 台所 (1-2) 居間 (1-3) その他の室内
(1-4) 庭など
- 2 そこで何をしていましたか (2-1) 家事の最中 (2-2) 食事中
(2-3) テレビを見ていた (2-4) 腰かけやソファなどにゆったりしていた
(2-5) 新聞や本を見ていた (2-6) 病気や休養で横になっていた
(2-7) その他()

〔8〕 (外にいた方に)あなたは身の安全を守るためどのような行動をしましたか。

- 1 無意識のうちに建物、へいや電柱などに近づいた
- 2 意識的に建物の中に入った
- 3 無意識のうちに建物、へいや電柱などから離れた
- 4 意識的に建物、へいや電柱などから離れた
- 5 無我無中だった
- 6 その他 ()

〔9-1〕 地震のときあなたの家では火を使っていましたか。

- 1 使っていた (1-1) 都市ガス (1-2) プロパンガス
(1-3) 石油コンロ (1-4) 電熱器 (1-5) その他 ()
- 2 使っていなかった

〔9-2〕 地震の発生したときあなたの家では火を消しましたか。(使っていた方だけ記入してください)

- 1 すぐ火を消した
- 2 しばらくして消した
- 3 消そうと思ったが消せなかった
- 4 あわてて消すのを忘れていた

〔10-1〕 あなたの家でけがをした人がありましたか。

- 1 いない
- 2 い る (2-1) 室内で
(2-1-1) 家具が倒れて (2-1-2) その他 ()
(2-2) 外で (2-2-1) へいが倒れて
(2-2-2) 瓦や壁の破片などで (2-2-3) その他 ()

〔10-2〕 あなたの家で不幸にしてけがをされた方が病院で手当を受けに行ったとき、病院側の対応などはどうでしたか。

- 1 けがの程度は (1-1) 軽 傷 (1-2) 重 傷
- 2 病院までどのようにして行きましたか (2-1) 救急車で (2-2) 自家用車で
(2-3) 歩いて (2-4) タンカで運ばれて (2-5) その他 (2-6) 家で手当した
- 3 病院ですぐに手当をうけることができましたか (3-1) できた
(3-2) 二、三か所回った(か所) (3-3) その他

III 地震がおさまってからの行動について伺います

〔11〕 地震がおさまった時点で心配なことは何でしたか。(いくつでも○をつけてください)

- 1 火災の発生
- 2 ガソリンスタンドなどの爆発
- 3 津波の発生
- 4 停電、断水、ガスが止まる
- 5 交通まひ
- 6 食料品の確保
- 7 建物などの損壊
- 8 家族の安否
- 9 その他 ()
- 10 わからない

〔12〕 (家にいた方に)あなたは地震がおさまったあと何をしましたか。(いくつでも○をつけてください)

- 1 家族の安否を確認するため電話(通じなかった場合も含む)
- 2 隣近所との連絡
- 3 食料品の買い求め
- 4 家でちっとしていた
- 5 家の中の点検
- 6 家の周りの点検
- 7 ガス・水道などの点検
- 8 その他 ()
- 9 わからない

〔13〕 (外出していた方に)あなたは地震がおさまったあと何をしましたか。

- 1 家への連絡
- 2 家へ急いだ (2-1) マイカーで (2-2) バス・タクシーで
(2-3) 他人の車で (2-4) 自転車・バイクで (2-5) 歩いて
- 3 職場等にもどった
- 4 どうしてよいかわからない状態だった
- 5 その他 ()

〔14〕 (マイカー・バス・タクシーで家へ帰った方に)地震のあと道路は車で大変混雑し渋滞が続きました
がそのときあなたは。

- 1 車をどこかで乗り捨て、とにかく一刻も早く家に帰らねばとあせった。
- 2 イライラしたが朝夕の渋滞と同じでしょうがないと思った。
- 3 地震のあとの渋滞はなるほどひどいと思った。
- 4 ラジオをつけじっくりと時を待った。
- 5 渋滞になれているので特にどうということとはなかった。
- 6 そんなに渋滞していなかった。
- 7 スイスイとスムーズに通れた(その場所はどこでしたか)

〔15-1〕 あなたは地震直後(地震発生から5時間以内)

の情報は何かから得ましたか。(いくつでも○をつけてください)

- 1 ラジオ 2 テレビ 3 隣近所の口こみ 4 家族から 5 電話
- 6 広報車 7 その他() 8 何も得られなかった

〔15-2〕 あなたは、地震直後、情報として何を知りたかったですか。(いくつでも○をつけてください)

- 1 被害の状況 2 家族や家(外出した場合)がどうなっているか
- 3 津波や火災の発生がないかどうか 4 交通情報 5 余震はくるかどうか
- 6 水道・ガスなどが大丈夫か 7 生活物資が大丈夫かどうか
- 8 何をすればよいか指導・連絡など 9 その他()

〔16〕 あなたが地震後に力強く感じたのは何ですか。(いくつでも○をつけてください)

- 1 市町村の広報車での広報 2 隣近所の人達の助まし合いや協力など
- 3 県や市町村の広報・救助活動 4 ガス復旧工事などの他県からの応援活動
- 5 ラジオによる情報 6 自衛隊の活動 7 警察・消防隊などのパトロール
- 8 町内会の援助活動や救助活動 9 テレビや新聞などによる情報
- 10 その他() 11 力強く感じたことはない

〔17〕 あなたはいままでの地震の体験がこんどの地震に役立ったと思いますか。

- 1 全く役立たなかった 2 若干は役に立った 3 体験で落ち付いて行動できた
- 4 わからない 5 その他()

〔18-1〕 あなたは家族全員(最もおそかった家族について)の安否を何によってわかりましたか。

- 1 電話で 2 家族が帰って来て 3 よその人などからの連絡で
- 4 その他() 5 家族がいない

〔18-2〕 家族全員の安否がわかったのは地震発生後何時間位たってからでしたか。

- 1 1時間以内 2 2~3時間 3 4~5時間 4 6~7時間 5 翌日になってから

〔19〕 あなたが地震直後大変不便に感じたことはどんなことでしたか。(いくつでも○をつけてください)

- 1 テレビが使えなかった 2 水が出なかった 3 ガスが出なかった
- 4 トイレが使えなかった 5 電話が不通で連絡手段が全くなかった
- 6 交通混雑 7 代替燃料の不足 8 交通機関の不通 9 食糧など生活必需品の不足
- 10 その他() 11 不便なこととはなかった

Ⅳ 地震や被害や生活への影響などについて伺います

〔20-1〕 あなたの家屋（建物）、宅地などの被害はどの程度でしたか。

- 1 物が落ちたり、花びん・食器などがこわれた程度ですんだ
- 2 浴場のタイルや壁にひびが入るほどの被害があった
- 3 タンスや戸棚が倒れ家具がこわれた
- 4 瓦がとんだり、壁が落ちるなどかなりの被害となった（一部破損）
- 5 柱がおれたり建物が傾くなどの被害だが、修理すれば使用できる（半壊）
- 6 家が倒れたり立っていても修理不能となった（全壊）

〔20-2〕 あなたの宅地、へいなどの被害はどの程度でしたか。

- 1 宅地・へいの被害はなかった
- 2 宅地に地割れができた
- 3 へいや石垣にひびが入った
- 4 へいや石垣がくずれた
- 5 へいや石垣が倒れた（へいは何づくりですか）

〔20-3〕 あなたの家の家具、建物などの被害を金額で見積るとどの程度になりますか。（ただし、被害額は、現在の評価額を基に見積ってください。わからないときは目安でもよいです）

家具	1	10万円程度	2	10～20万円程度	3	20～50万円程度
	4	50～100万円程度	5	100万円以上	6	被害がない
建物	1	10万円程度	2	10～20万円程度	3	20～50万円程度
	4	50～100万円程度	5	100～300万円程度	6	300～500万円程度
	7	500万円以上	8	被害がない		

（100万円以上の被害の場合は被害の内容を簡単に記入してください）

宅 地 へ い な ど	1	10万円程度	2	10～20万円程度	3	20～50万円程度
	4	50～100万円程度	5	100万円以上	6	被害がない

〔21〕 あなたの家では住まい以外に事業場などの被害や事業に影響がありましたか。

- 1 貸家に被害があった
- 2 商品などに被害があった
- 3 事業（ ）の施設や機械などの一部が被害を受けた
- 4 事業（ ）が全くできない

〔22-1〕 あなたの家では地震がおきてから電気の状態はどうでしたか。

- 1 停電しなかった
- 2 停電したが（2-1）その日のうちに回復
- （2-2）2～3日で回復（2-3）4～5日で回復（2-4）6～9日で回復
- （2-5）回復するまで10日以上かかった

〔22-2〕（停電した方に）停電中どんな対応をしましたか

- 1 暗いままで生活した
- 2 親せきなど他所で生活した
- 3 ローソクで間に合せた
- 4 電池による電灯を使用した
- 5 その他（ ）

〔23〕 あなたの家では地震がおきてから電話の状態はどうでしたか。

- 1 通話できた
- 2 通話ができなかったが（2-1）すぐに回復
- （2-2）2～3時間で回復（2-3）4～5時間で回復
- （2-4）回復するまで6時間以上かかった

[24-1] あなたの家では地震がおきてから水道の状態はどうでしたか。

- 1 断水しなかった 2 断水したが (2-1) 1日で回復
(2-2) 2～3日で回復 (2-3) 4～5日で回復 (2-4) 6～9日で回復
(2-5) 回復するまで10日以上かかった

[24-2] (断水した方に)断水した間どのように対応しましたか。

- 1 給水車の水だけで生活した 2 親せきなど他所で生活した
3 近所の井戸などからもらって生活した 4 その他()

[25-1] (都市ガスを使用している方に)都市ガス(集中管理方式のプロパンを含む)の状態はどうでしたか。

- 1 止らなかった 2 止まったが (2-1) 1～3日のうちに回復
(2-2) 4～5日で回復 (2-3) 6～10日で回復 (2-4) 11～15日で回復
(2-5) 回復まで16日以上かかった

[25-2] (ガスが止った方に)止った間どのように対応しましたか。

- 1 電気などに頼るしかなかった 2 親せきなど他所で生活した
3 臨時にプロパンなどを買った 4 普段使っていない石油コンロ、豆炭、練炭を使用した
5 その他()

[26] あなたの家の近くで地割れ、地すべり、道路のき裂などの被害で生活に影響がありましたか。(いくつかでも○をつけてください)

- 1 他の所に避難した 2 二次災害のおそれがあり心配だ 3 通勤通学に不便だ
4 あまり影響がなかった 5 その他()

[27] 地震以来20日たつたいま、あなたが心配なこと、困っているのは何ですか。(いくつかでも○をつけてください)

- 1 心配ごとや困っていることはない 2 ガケくずれなどの二次災害が心配だ
3 家屋修理などのお金の調達が心配だ
4 ガスの復旧がおくれ生活が元にもどらず困っている 5 けが人など健康回復
6 その他() 7 わからない

[28-1] あなたは商店などが地震被害を受けたため買物の不便を感じましたか。

- 1 買物に支障がなかった 2 休店が若干あったが不便を感じなかった
3 多くの店が休み不便だった 4 その他() 5 わからない
7 感じなかった

[28-2] あなたは生活に必要な物資が不足して困りましたか、それは何でしたか。

- 1 食料品 (1-1) 青果物 (1-2) パンなど 2 プロパンガス
3 医薬品 4 衣料品 5 その他() 6 わからない 7 なかった

[29] 地震後、食料品など生活必需品の価格はどうでしたか。

- 1 以前と全く変っていない 2 やや高くなったものがある(品名)
3 むしろ安くなったものがある(品名) 4 わからない
5 その他()

V 地震への備えについて

[30] あなたは前から宮城県でも震度5(こんどの地震)程度の地震がくると思ったことがありましたか。

- 1 いつかは地震がくると思っていた 2 宮城県にはこないと思っていた
3 全然そんなことを考えたことはない 4 その他()

〔31-1〕 あなたの家で地震がきたときのことを家族で話し合ったことがありますか。

- 1 いつも話し合っている 2 たまに話することがある 3 ほとんどない
4 全くない 5 その他()

〔31-2〕 そのときの話はどんな内容のことでしたか。(いくつでも○をつけてください)

- 1 宮城県では地震がくるかこないかということ 2 どこに避難するか
3 非常用携帯食品などの準備 4 火を消すとか注意すること
5 家族がばらばらになったときの連絡方法や連絡先など 6 とっさの時の家族の役割など
7 貴重品など持出しするもの 8 その他()

〔32-1〕 あなたの家では地震に備えて何か心掛けていることがありますか。

- 1 非常用生活用品などを備えている 2 タンスなどが倒れないようひもでつないでいる
3 考えてはいるが具体的にはしていない 4 全く考えていない
5 その他()

〔32-2〕 あなたの家で生活用品など災害時に必要な物資で備えていたものは次のどれですか。

(いくつでも○をつけてください)

1. 消火器 2. 防火用水 3. 非常用燃料 4. ロープ、はしご
5. トランジスタラジオ 6. 懐中電灯 7. ローソク 8. 救急薬品
9. 非常用食品 10. 非常用持出し袋 11. 防水ビニールシート
12. その他() 13. 準備していない

〔32-3〕 こんどの地震の体験で是非とも備えておくべきものをあげてください。

(いくつでも○をつけてください)

1. 消火器 2. 防火用水 3. 非常用燃料 4. ロープ、はしご
5. トランジスタラジオ 6. 懐中電灯 7. ローソク 8. 救急薬品
9. 非常用食品 10. 非常用持出し袋 11. 防水ビニールシート
12. その他()

〔32-4〕 あなたの家では普段からの準備や心構えがこんどの地震で役に立ちましたか。

- 1 家族と地震のことで話していること 2 災害時に必要な物資の準備
3 準備していたが実際にはあまり役に立たなかった
4 あわてていたので全然役に立たなかった
5 準備をしていなかったなのでその必要を感じた 6 その他()

〔33〕 あなたの職場では地震に備えて話し合いや準備をしていますか。

- 1 話し合いをしている 2 必要なものを準備している
3 職場で災害時の訓練をやっている 4 余りない 5 全くない

Ⅵ 復旧対策や広報活動などについて伺います

〔34〕 こんどの地震後に変わった現象がありましたら、日時、場所、状態などをお書きください。

(井戸水の水位に変化があった、水田の稲が浮いたなど具体的に)

[35] あなたは、こんどの地震直後大きな混乱がなかった理由は次のどれだと思いますか。

(いくつでも○をつけてください)

1. 正しい情報が十分に流れたから
2. 地震がおきた時間などに恵まれていたから
3. 火災や津波などがなかったから
4. 多くの人が冷静に行動したから
5. 暗くなる前で最少限の対応ができたから
6. 日ごろの心構えがあったから
7. 食料品などの入手が容易であったから
8. 電話がどうやら通じたから
9. その他 ()
10. わからない

[36-1] あなたは地震直後に市町村、県などで行った広報についてどのように考えていますか。

1. 良くやったと思う
2. まあまあだ
3. あの事態ではあの程度で止むを得なかった
4. もっとやるべきだったと思う
5. その他 ()
6. わからない

[36-2] あなたは地震直後(1~2日間)の市町村、県からの広報は何がよいと思いますか。(いくつでも○をつけてください)

1. ラジオ
2. テレビ
3. 新聞
4. ちらし
5. ヘリコプター
6. 町内会などの口こみ連絡
7. 広報車
8. その他 ()
9. わからない

[37-1] あなたは市町村などの地震災害の応急・二次災害防止対策についてどのように考えていますか。

1. 良くやったと思う
2. まあまあだ
3. あの事態ではあの程度で止むを得なかった
4. もっとやるべきだったと思う
5. その他 ()
6. わからない

[37-2] あなたは、こんどの地震で町内会や隣近所がどんなに役立ったと思いますか。

1. 隣近所のつき合いが力強く感じた
2. 跡片づけや応急対策を手伝った
3. 生活などの情報を交換し合った
4. 生活物資を交換し合った
5. 入浴の便の提供、食事の共同炊飯など生活面で助け合った
6. とくに助け合っていない
7. その他 ()
8. わからない

[38] あなたはこんどの体験を生かすには次のどれが最も大切だと考えますか。(いくつでも○をつけてください)

1. 各人が、日ごろから大地震に備えておくことが大切だ
2. 市町村、県がもっと地震対策に力を入れるべきだ
3. 地震に耐えられる町づくりを考えるべきだ
4. 地震対策の科学的解明にもっと力を入れるべきだ
5. その他 ()
6. わからない

今回の地震について、ご感想、ご意見がありましたら簡単に記入してください。

(ご感想・ご意見)

あなたの家で何が気づいたことがありましたら記入してください。

(スチールの本箱だけたおれた。仙台ダンスはたおれなかった。瀬戸がわらはいたんだなど具体的に)

私たちは、今回の地震でそれぞれ多くの被害を受けました。しかし、私たち自身の力で立ちあがらなければなりません。私たちの力を合わせて私たちの生活を再建したいと思います。皆さんも一日も早く、災害から立ち直り、毎日の生活を確立されるようお祈りいたします。

ご協力ありがとうございました。もう一度ごらんになって書きおとしや書き間違いを点検してから封筒に入れ、ポストに投函してください。切手をはる必要はありません。

皆さんの体験、ご意見を今後の地震対策に活用いたします。

②「1978年宮城県沖地震」のあらまし

(1) 日時、震源地等

- 日時：昭和53年6月12日午後5時14分
- 震央：宮城県沖 北緯38° 09′ 東経142° 13′
- 深さ：30キロメートル

(2) 地震の規模、震度等

○マグニチュード 7.4

○震度 仙台 5 石巻 5

(県外) 震度 5 大船渡、福島、新庄、

4 秋田、白河、一関、山形、八戸、盛岡、酒田、小名浜、宮古、東京、前橋、銚子、帯広、横浜、大島、館山、宇都宮、鷹巣、水戸

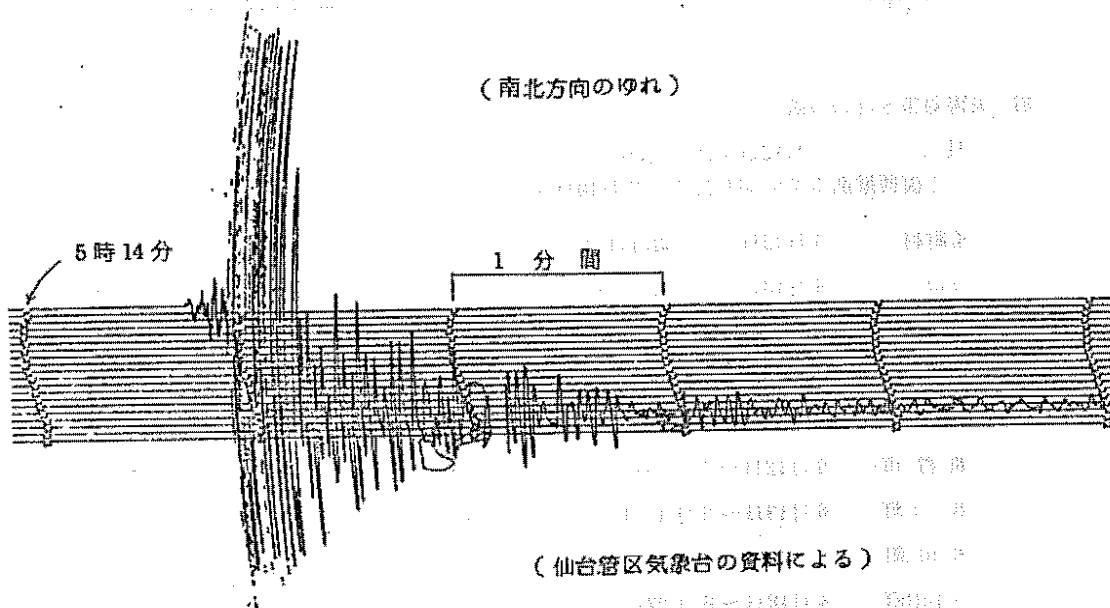
3 青森、静岡、甲府、網代、三島、勝浦、秩父、河口湖、高田、軽井沢、函館、根室、釧路、広尾、浦河

○津波 鮎川 6月12日午後6時 17センチを記録

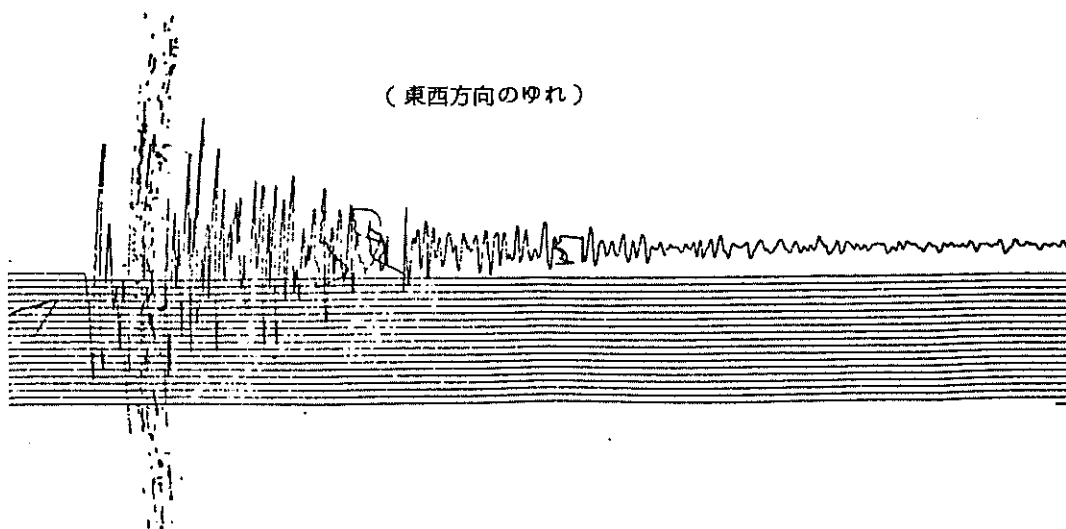
津波警報発表 6月12日午後 5時 21 分

解除 午後 8時 30 分

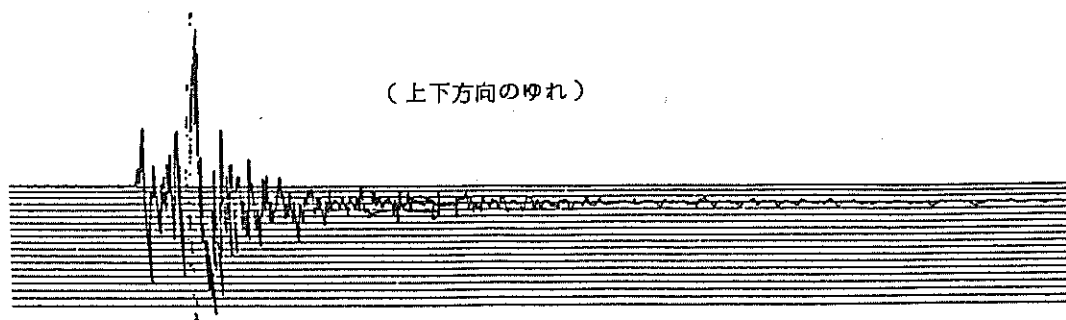
○地震波



(東西方向のゆれ)



(上下方向のゆれ)



(3) 災害対策本部の設置

県 6月12日午後5時30分
(復興推進本部に切り替え 7月10日)

市町村	6月12日	53市町村
	6月13日	2 //
	6月14日以降	1 //

計 56 (設置しない市町村は18)

(4) 災害救助法適用市町及び適用期間

仙 台 市	6月12日～7月 1日
迫 町	6月13日～6月19日
米 山 町	6月13日～6月19日
小牛田町	6月13日～6月27日
鳴 瀬 町	6月14日～6月30日
泉 市	6月22日～7月 5日

(5) 被 害

死亡者	27 名	住家被害	
負傷者	10,181 名	全壊	1,273 戸
重傷者	406 名	半壊	5,652 戸
軽傷者	9,775 名	一部破損	124,738 戸
罹災世帯	6,783 世帯	非住家被害	40,438 戸
罹 災 者	25,972 人		

(6) 被 害 額

住 家	76,424 百万円	商 工	95,754 百万円
医療衛生施設	5,261	農 業	12,495
林 業	863	公共土木施設	27,983
水産業	3,864	その他	36,350
教育施設	7,372	総 額	266,367

(7) 激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律に基づく指定

公布年月日 昭和53年7月28日

激甚災害指定 昭和53年6月の宮城県沖地震による災害

適用すべき措置

法第12条 中小企業信用保険法による災害関係保証の特例

法第13条 中小企業近代化資金等助成法による貸付金等の償還期間等の特例

法第15条 中小企業者に対する資金の融通に関する特例

法第22条 罹災者公営住宅建設事業に対する補助の特例

(8) 仙台で観測した震度4以上の地震

発震年月日	震 源 地	規模	震度	発震年月日	震 源 地	規模	震度
1927. 1.18	宮 城 県 沖	6.1	4	1959. 1.22	福島県はるか沖	6.8	4
1927. 8.16	〃	6.9	4	1959. 1.24	〃	〃	4
1933. 3. 3	三陸はるか沖 (三陸大津波)	8.3	5	1960.11.26	宮 城 県 南 部	〃	4
1933. 6.19	宮 城 県 沖	7.1	4	1962. 4.12	福 島 県 沖	6.8	4
1936.11. 3	〃	7.7	5	1962. 4.30	宮 城 県 北 部	6.5	4
1937. 7.27	〃	7.2	4	1963. 8.15	福 島 県 沖	6.6	4
1938. 5.23	茨 城 県 沖	7.1	4	1964. 6.16	新 潟 県 沖	7.5	5
1938.11. 5	福 島 県 沖	7.7	5	1967. 1.17	宮 城 県 沖	6.3	4
1938.11. 5	〃	7.6	5	1968. 6.12	十 勝 沖	7.2	4
1938.11. 6	〃	7.5	4	1970. 9.14	宮 城 県 沖	6.2	4
1942. 2.21	〃	6.6	4	1977. 6. 8	宮 城 県 沿 岸	5.9	4
1953.11.26	千 葉 県 沖	7.5	4	1978. 2.20	宮 城 県 沖	6.7	4

③ 仙台市消防局のアンケート調査結果

仙台市消防局では、地震発生の翌日 6 月 13 日に、今回の地震の際仙台市内の家庭の主婦などのように対処したかを知るため、市内 100 名の主婦に電話によるアンケート調査を実施した。

調査内容及び結果は次の通りである。

〔 1 〕 地震のとき火を使っていたか

使っていた	28 名
使っていなかった	72 名

〔 2 〕 地震になってまず何をしたか

火を消した	26 名
外へ飛び出した	23 名
家具などに身を寄せた	15 名
何もできなかった	25 名
そ の 他	11 名

〔 3 〕 地震によって被害があったか

ほとんどなかった	13 名
多少あった	43 名
相当あった	44 名

④ 泉市消防局のアンケート調査結果

泉市消防局では、泉市全域の住宅地図帳から任意に抽出した 240 人（全世帯数の 1 %）の主婦を対象に、アンケート調査を実施した。調査は、6 月 25 日から 6 月 30 日まで直接面接する方法で行なわれ、地震時の行動、地震に対する意識と反応を主体に調査した。調査結果の概要は次のとおりである。

〔 1 〕 地震の被害状況

(1) 今回の地震でどんな被害があったか

戸棚が倒れ、家具什器等がこわれた	84 人 (35.0%)
土台、よう壁、石垣に割れ目ができたり、くずれた	54 人 (22.5)
壁、タイル等がはずれ又はひびが入った	42 人 (17.5)
へい、門柱が倒れたり又は倒れなかった	33 人 (13.2)
屋根瓦がくずれた	11 人 (4.6)
戸、ふすま等が外れたり、ガラスが割れた	3 人 (1.3)
被害がなかった	14 人 (5.8)

(2) 今回の地震でけがをしましたか

けがをした	3人 (1.3 %)
家具が倒れて	2人 (0.8)
割れたガラスをふんで	1人 (0.4)
けがの程度は	
軽 傷	3人 (1.3 %)
重 傷	— (—)

〔 2 〕 地震時の行動

(1) 地震時に、どこにいたか

建物内にいた	208人 (86.6 %)
自 宅	168人 (70.0)
買 物(商店等)	19人 (7.9)
勤務先	7人 (2.9)
訪問先	14人 (5.8)
建物外にいた	32人 (13.4)
仕事中	12人 (5.0)
乗物の中	3人 (1.3)
道路歩行中	16人 (6.7)
その他	1人 (0.4)

(2) 火を使っていたか

使用していた	51人 (24.5 %)
使用していなかった	157人 (75.5)

(3) 使用していた器具は何か

ガスコンロ	37人 (72.6 %)
ガス及び石油風呂	7人 (13.7)
湯沸器	4人 (7.5)
ガス炊飯器	3人 (5.9)

(4) 火の始末ができたか

火を消した	51人 (100.0 %)
消さなかった	— (—)

(5) 火の始末をした時点はいつか

ゆれている間	45人 (88.2 %)
ゆれがおさまってから	6人 (11.8)

(6) 家族で火の始末について今まで話したことがあるか

話したことがある	210人 (87.5 %)
----------	---------------

な い	30 人 (12.5 %)
〔 3 〕 地震に対する不安感	
(1) 今回の地震をどのように感じたか	
とにかく恐しかった	98 人 (40.9 %)
家がつぶれると思った	85 人 (35.4)
それほど心配しなかった	32 人 (13.3)
その他	25 人 (10.4)
(2) 地震による被害で何が一番心配か	
火 事	156 人 (65.0 %)
家屋の倒壊	33 人 (13.8)
震動による物の落下	19 人 (7.9)
ブロックべいなどの倒壊	31 人 (12.9)
その他	1 人 (0.4)
〔 4 〕 消火器具の設置及び非常持出品の準備	
(1) 消火の準備	
準備している	179 人 (74.6 %)
していない	61 人 (25.4)
(2) 何を準備しているか	
消火器	154 人 (86.0 %)
水バケツ	18 人 (10.1)
浴そうに水を張っておく	7 人 (3.9)
(3) 消火器の使い方を知っているか	
知っている	144 人 (80.0 %)
知らない	35 人 (20.0)
(4) 地震が真冬で火事が発生したとき、初期のうちなら 消火できると思うか	
できる	135 人 (56.3 %)
できない	105 人 (43.8)
(5) 町内会などの避難訓練等に参加したことがあるか	
あ る	118 人 (49.2 %)
な い	122 人 (50.8)
(6) 非常持出品の準備をしているか	
している	102 人 (42.5 %)
していない	138 人 (57.5)

〔 5 〕 地震対策として何が必要か

非常食・飲料水の確保	90 人 (37. 5 %)
避難対策の確立	74 人 (30. 8)
初期消火対策	55 人 (22. 9)
防災訓練の実施	10 人 (4. 2)
その他	11 人 (4. 6)

⑤ 石巻地区広域行政事務組合のアンケート調査結果

石巻地区広域行政事務組合では、6月13日全域（石巻地区管内：1市9町）から無作為に抽出した300人を対象に電話による調査を行ったが、結果の特徴は次のとおりであった。

〔 1 〕 6月12日午後5時15分頃の地震を感じたか

家庭では夕刻だったため全員が感じている。

〔 2 〕 地震を恐ろしいと思ったか

震度5であったためか、254人（84％）が「大変恐ろしかった」という回答

〔 3 〕 火気を使用していたか

火気を使用していたのは、夏季のためもあった73人（24％）と比較的少なかった。

〔 4 〕 使用していた火気器具の種類は

火気の使用は88個、うちガスコンロ55台、ガス炊飯器10台、石油風呂7台、ガス風呂6台、石油ストーブ2台、まき風呂1台、その他3台であった。

このうち、火の始末をしたものは87個（99％）であった。

〔 5 〕 何時の時点で火の始末をしたか

火の始末をした世帯72人（99％）のうち「地震を感じた直後火の始末をした者」65人（90％）、「身の安全を図った後、おおよししばらく様子をみた後火の始末をした者」は6人（8％）であった。

〔 6 〕 最初にどんな行動をしたか（火を使っていなかった人に）

火を使用しなかった者227人のうち73人（32％）は机の下に入るとか、ドアを開けるとかの防護措置をとっていない、「外へ逃げた」家庭が71人（31％）、「そのまま様子を見ていた」29人（13％）。「動転していて何もできなかった」11人（5％）、その他43人（19％）となり、地震に対する心構えができていない。

〔 7 〕 今回の地震で火災が起きそうになったか

「なかった」が99人であった。

〔 8 〕 火災が起きそうになった火気は何か

これは1人で、ガスコンロが地震の振動で壁に接近しすぎたためであった。

- 〔9〕 地震の時の火の始末などで家族が話し合ったことがあるか
「家族で話し合ったことがある」が197人(66%)、「話し合ったことがない」が103人(34%)であった。
- 〔10〕 非常持出の準備はしているか
191人(64%)の人が「準備していない」であった。
- 〔11〕 消火訓練など防災訓練に参加したことがあるか
「参加したことがない」が167人(56%)で過半数の人は参加したことがない有様である。
- 〔12〕 消火器があるか
家庭に消火器があるのは253人(84%)で普及率はかなり高い。

⑤ 迫町消防署のアンケート調査結果

迫町消防署において、町民204人を対象にアンケート調査を行ったが、その大要は次のとおりである。

- 〔1〕 今度の地震を感じたか
- | | |
|------|------------|
| 感じた | 204人(100%) |
| 感じない | 0(0%) |
- 〔2〕 恐ろしく感じたか
- | | |
|----------------|-------------|
| 大変恐ろしかった | 165人(80.8%) |
| 恐ろしかった | 36人(17.7%) |
| あまり恐ろしいと思わなかった | 1人(0.5%) |
| 恐ろしくなかった | 1人(0.5%) |
| その他 | 1人(0.5%) |
- 〔3〕 火気使用状況
- | | |
|-----------|-------------|
| 使用していた | 41人(20.0%) |
| 使用していなかった | 163人(80.0%) |
- 〔4〕 火気器具の火の始末の状況
- | | |
|-----------|------------|
| ガスコンロ | 31人(70.4%) |
| ガス炊飯器 | 5人(11.7%) |
| 瞬間湯沸器 | 3人(6.9%) |
| ガス風呂・石油風呂 | 3人(6.9%) |
| 電気ストーブ | 0人(0%) |
| その他 | 2人(4.6%) |
- 〔5〕 火の始末をどの時点で実施したか
- | | |
|-----------|------------|
| 地震を感じた時点で | 33人(76.6%) |
|-----------|------------|

	身の安全をはかってから	5人 (11.5 %)
	しばらく様子をみてから	2人 (4.6 %)
	その他	3人 (6.9 %)
(6)	火を使用していなかった者の行動について	
	机の下に入ったりして様子をみた	14人 (8.5 %)
	ドアなどを開けて外の様子をみていた	25人 (15.1 %)
	そのままの状態様子をみていた	17人 (10.3 %)
	外へ逃げた	68人 (41.3 %)
	気が動転して何もできなかった	17人 (10.3 %)
	その他	24人 (14.5 %)
(7)	今度の地震で火災が起きそうなのがあったか	
	あった	3人 (1.5 %)
	なかった	201人 (98.5 %)
(8)	それはどんなことか	
	使用中のガスコンロなどに可燃物が落ちた	1人
	煮物中のガスの火が異常燃焼した	2人
(9)	火の始末等で家族が話し合ったことがあるか	
	あ る	178人 (87.3 %)
	な い	26人 (12.7 %)
(10)	非常持出品の準備	
	あ る	64人 (31.4 %)
	な い	140人 (68.6 %)
(11)	訓練参加の状況	
	あ る	42人 (20.6 %)
	な い	162人 (79.4 %)

